秋田県文化財調査報告書第103集

遺跡詳細分布調査報告書

1983・3

秋田県教育委員会

序

埋蔵文化財保護行政の中で最初に行わなければならないものの一つに、遺跡の分布調査があります。これは範囲確認調査とともに遺跡保護の基礎的な仕事です。

この分布調査を今年度は国道７号線バイパス建設に伴うものについて実施し、その結果新しく３か所の遺跡を発見いたしました。一方、範囲確認調査は能代開拓建設事業、県道バイパス建設予定地、七曲工業団地造成工事、土壌汚染対策事業、河川改修事業、東北横断自動車道建設に伴うものについて実施いたしました。特に、範囲確認調査遺跡は昭和58年度の具体的開発区域内にあるため、早急に対策を講じ埋蔵文化財を保護する立場で対処していきたいと考えております。

最後になりましたが、両調査に御協力いただきました関係各機関に御礼申しあげるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護に御援助くださいますようお願い申しあげます。

昭和58年３月

秋田県教育委員会
教育長　畠　山　芳　郎

例　　言

1．本報告書は昭和57年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て遺跡分布調査を実施した結果をまとめたものである。

2．遺跡分布調査は富樫泰時、範囲確認調査は船木義勝、大野憲司、熊谷太郎、庄内昭男、小玉　準、柴田陽一郎、橋本高史、小林　克が担当した。

3．範囲確認調査は各遺跡担当者が作成したものをそのまま掲載したものであり、執筆者は調査担当者である。

4．本報告書は橋本高史が主に編集した。

5．範囲確認調査のうち、清水上遺跡、向田遺跡は調査の結果、遺構その他を確認できず、本報告から除外した。

6．本調査には次の機関からご協力をいただいた。

能代市教育委員会、男鹿市教育委員会、若美町教育委員会、河辺町教育委員会、増田町教育委員会、羽後町教育委員会、平鹿町教育委員会、象潟町教育委員会、東北農政局能代開拓建設事業所、秋田県工業立地課、秋田県秋田土木事務所、河辺町七曲工業団地対策室。

目　　次

序

例　言

第１章　はじめに…… 1

第２章　昭和57年度遺跡分布調査実施要項…… 1

　第１節　分布調査…… 1

　第２節　範囲確認調査…… 2

第３章　調査の記録…… 4

　第１節　分布調査…… 4

　　三十刈Ⅰ・Ⅱ遺跡（男鹿市）…… 4

　　カウヤ遺跡（象潟町）…… 4

　第２節　範囲確認調査…… 6

　　横長根遺跡（能代市）…… 6

　　寒川遺跡（能代市）…… 12

　　頭無上遺跡（能代市）…… 20

　　成合遺跡（能代市）…… 21

　　横長根遺跡（若美町）…… 28

　　風無台Ⅰ遺跡（河辺町）…… 33

　　石坂台遺跡（河辺町）…… 36

　　風無台Ⅱ遺跡（河辺町）…… 39

　　風無台Ⅲ遺跡（河辺町）…… 42

　　松木台遺跡（河辺町）…… 45

　　八木遺跡（増田町）…… 48

　　竹原窯跡遺跡（平鹿町）…… 52

挿　図　目　次

第１図　三十刈Ⅰ、Ⅱ遺跡位置図…… 5
第２図　カウヤ遺跡位置図…… 5
第３図　横長根遺跡位置図、範囲図…… 7
第４図　寒川遺跡位置図、範囲図……13
第５図　寒川遺跡出土土器実測図……14
第６図　寒川遺跡出土石器実測図……15
第７図　頭無上遺跡、成合遺跡位置図……24
第８図　頭無上遺跡、成合遺跡各地点範囲図……24
第９図　頭無上遺跡、成合遺跡各地点出土遺物…25
第10図　横長根遺跡位置図、範囲図……29
第11図　七曲工業団地関係遺跡位置図……32
第12図　風無台Ⅰ遺跡範囲図……34
第13図　石坂台遺跡範囲図……37
第14図　風無台Ⅱ遺跡範囲図……40
第15図　風無台Ⅲ遺跡範囲図……43
第16図　松木台遺跡範囲図……46
第17図　八木遺跡位置図、範囲図……49
第18図　竹原窯跡遺跡位置図……53
第19図　竹原窯跡遺跡範囲図……53

図　版　目　次

図版１　三十刈Ⅰ・Ⅱ、カウヤ遺跡出土遺物
図版２　横長根遺跡遠景、Ａ地区近景
図版３　横長根遺跡Ａ地区土壙、Ａ地区貼床
図版４　横長根遺跡Ｂ地区遠景、Ｂ地区土壙・溝跡
図版５　横長根遺跡Ａ、Ｂ地区出土遺物
図版６　寒川遺跡遠景
図版７　寒川遺跡遺構検出状態
図版８　寒川遺跡出土遺物　(1)
図版９　寒川遺跡出土遺物　(2)
図版10　頭無上遺跡、成合遺跡Ｂ地点全景
図版11　頭無上遺跡、成合遺跡各地点出土遺物
図版12　横長根遺跡遠景、地層
図版13　横長根遺跡遺物出土状態、出土遺物
図版14　風無台Ⅰ遺跡遠景、出土遺物
図版15　石坂台遺跡遠景、出土遺物
図版16　風無台Ⅱ遺跡遠景、出土遺物
図版17　風無台Ⅲ遺跡遠景、出土遺物
図版18　松木台遺跡遠景、出土遺物
図版19　八木遺跡遠景、遺構検出状態
図版20　八木遺跡出土遺物
図版21　竹原窯跡遺跡遠景、現況
図版22　竹原窯跡遺跡調査状況
図版23　竹原窯跡遺跡出土品　(1)
図版24　竹原窯跡遺跡出土品　(2)

第1章　は　じ　め　に

昭和57年度の遺跡分布調査は、県道潟西・北浦線、国道７号線バイパス関係及び七曲工業団地造成地域について実施した。また範囲確認調査は国営能代開拓事業、県道バイパス予定地関係、七曲工業団地造成地域、県営土壌汚染対策事業、河川改修事業、東北横断自動車道に係る14遺跡の調査を実施した。

調査は秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センター及び秋田県立博物館の職員が実施した。

第２章　昭和57年度遺跡分布調査実施要項

第１節　分布調査

１．調査の目的

国道及び県道等のバイパス工事に係る路線上を踏査し、遺跡の有無を確認し、その保護策を講ずるものである。

２．調査主体者

秋田県教育委員会

３．調査対象地域

県道潟西・北浦線(男鹿市)、国道７号線バイパス工事(象潟町)、七曲工業団地造成地域（河辺町）を対象とした。このうち七曲工業団地造成地域は一部範囲確認調査を実施した。

４．調査員

秋田県教育庁文化課学芸主事　富樫泰時

５．調査の方法

計画路線の範囲内を表面採集及び一部発掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。

6．調査期間

昭和57年４月１日～12月27日

第２節　範囲確認調査

1．調査の目的

国営能代開拓事業、七曲工業団地造成事業、土壌汚染対策事業、その他の開発計画事業に係る右記遺跡の範囲確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護をはかることを目的に実施する。

2．調査主体者

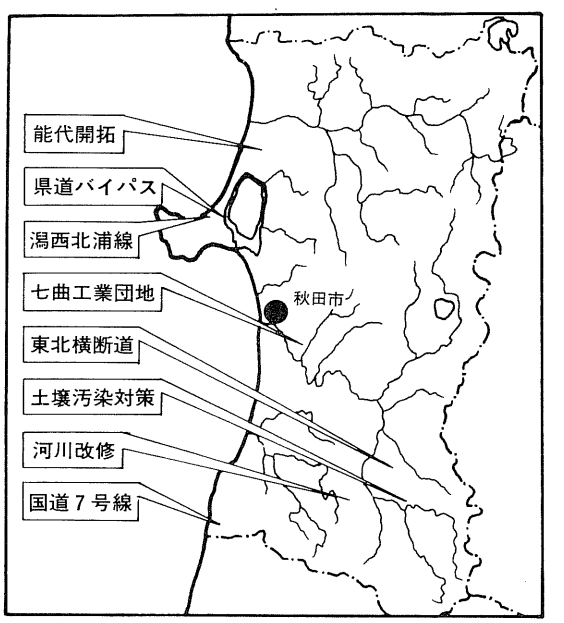
秋田県教育委員会

3．調査員

秋田県教育庁文化課学芸主事		富樫泰時
秋田県埋蔵文化財センター学芸主事		船木義勝
〃	社会教育主事	大野憲司
〃	社会教育主事	熊谷太郎
秋田県立博物館主事		庄内昭男
秋田県埋蔵文化財センター文化財主事		小玉　準
〃	文化財主事	柴田陽一郎
〃	文化財主事	橋本高史
〃	文化財主事	小林　克
（補佐員）		池田洋一
		三嶋隆儀
		高橋　修
		阿部義行

4．調査対象遺跡

原　　因	遺跡名	所在地	原　　因	遺跡名	所在地
能代開拓	横長根	能代市	七曲工業団地	風無台Ⅰ	河辺町
	清水上			石坂台	
	寒　川			風無台Ⅱ	
	頭無上			風無台Ⅲ	
	成　合			松木台	
県道バイパス	横長根	若美町	河川改修	向　田	羽後町
土壌汚染対策	八　木	増田町	東北横断道	竹原窯跡	平鹿町



昭和58年度分布調査地域

5．調査の方法

(1)　表面採集及び発掘調査（遺構確認面まで掘り下げる）を行い、遺跡の深さ・広さ及び性格を推定する。

(2)　調査期間は２～12日間とし、その期間でできる限り発掘面積を面的に広げて遺構の確認に努める。

(3)　測量は新規に行わず、開発部局で作成した地図の一番大きな縮尺図面を用いる。

(4)　遺構、遺物の有無を確認し記録する。遺跡全体の写真、発掘状況の記録は必ず撮る。

(5)　遺跡の立地条件等に即して適切な調査を実施する。

第3章　調査の記録

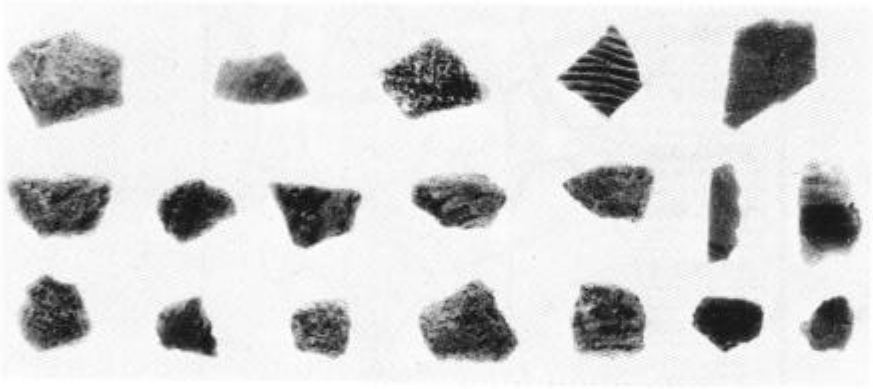
第1節　分布調査

県道潟西北浦線関係

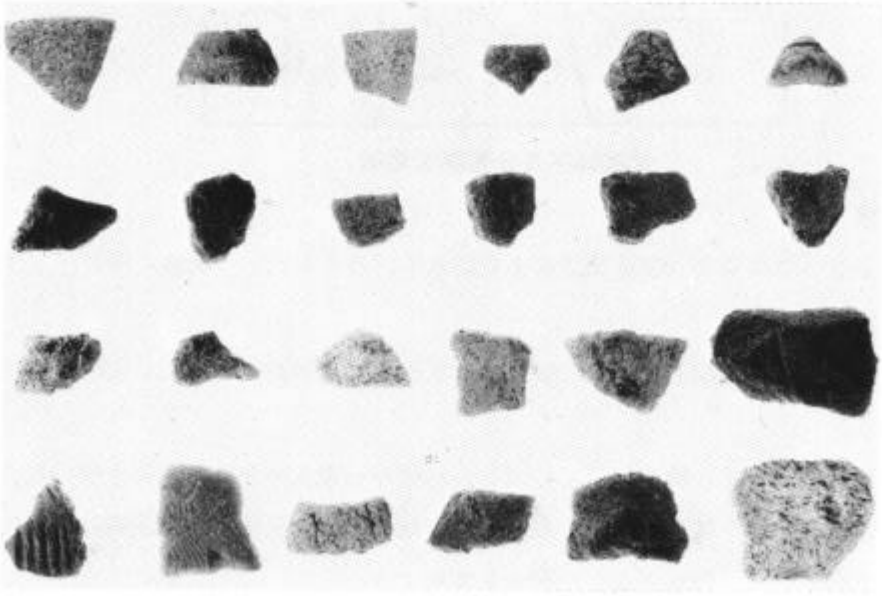
No.	遺跡名	所在地	公民	出土品	時代	種別
1	三十刈Ⅰ	男鹿市五里合箱井字三十刈	民	縄文晩期土器片、土師器片、黒曜石	縄文・古代	遺物包含地
2	三十刈Ⅱ	男鹿市五里合箱井字三十刈	民	土師器片、須恵器片、黒曜石	古代	集落跡？

国道7号線バイパス関係

No.	遺跡名	所在地	公民	出土品	時代	種別
1	カウヤ	由利群象潟町小砂川字カウヤ	民	須恵器片、土師器片	古代	集落跡？

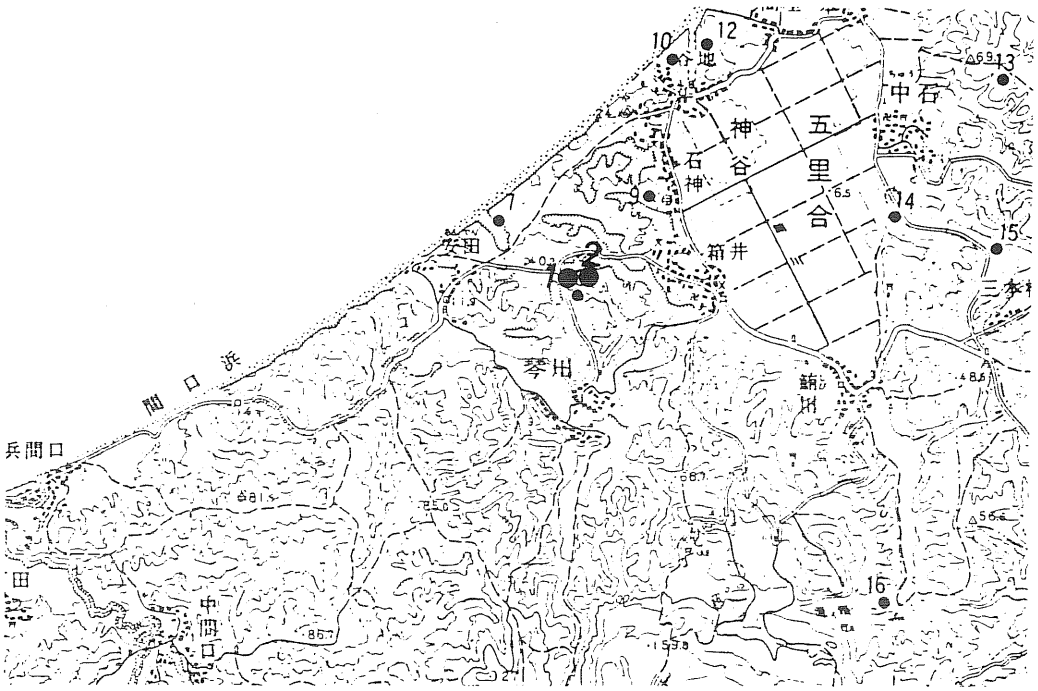


三十刈Ⅰ、Ⅱ遺跡採集遺物



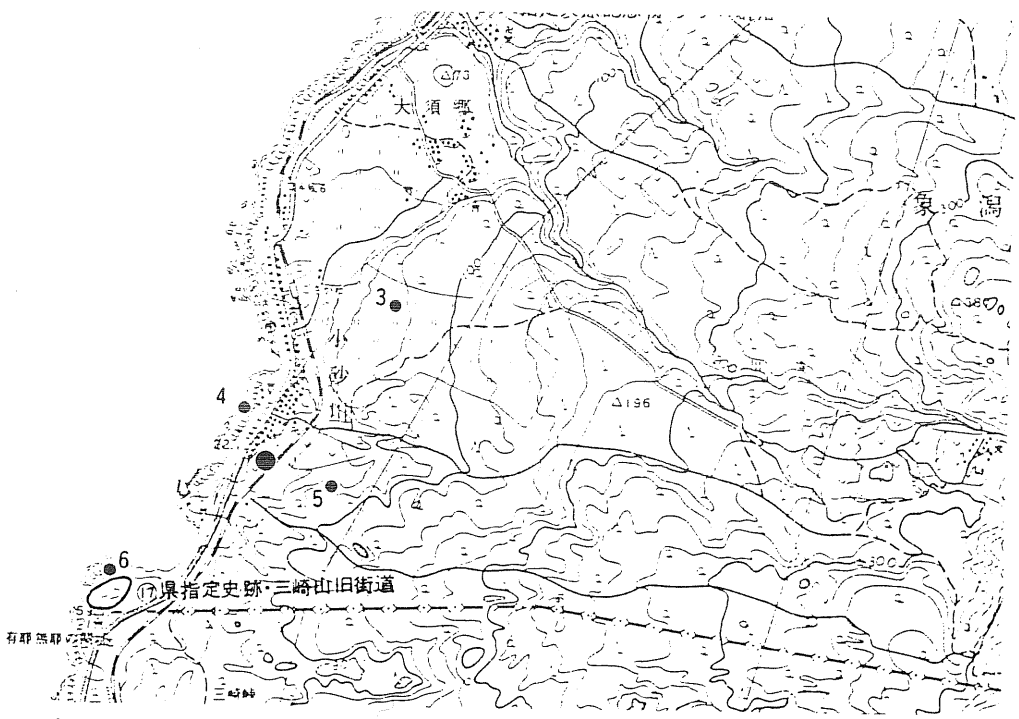
カウヤ遺跡出土遺物

図版1　三十刈Ⅰ、Ⅱ、カウヤ遺跡出土遺物



●1は三十刈Ⅰ、2は三十刈Ⅱ遺跡　●は周知の遺跡

第1図　三十刈Ⅰ、Ⅱ遺跡位置図



●はカウヤ遺跡　●は周知の遺跡　(1/5万)

第2図　カウヤ遺跡位置図

第2節　範囲確認調査

横長根遺跡（能代市）

1．所在地

能代市浅内字横長根

2．面　積

A地区……約33,100m²

B地区……約10,080m²

3．調査期間

昭和57年11月17日～12月2日

4．調査者

大野憲司

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は米代川の左岸、日本海に西面する段丘上に位置する。この段丘面は南北に長く連なり、これを細かく刻むようないくつもの小さな開折谷が西から入り込む。遺跡はこのような谷の南側に立地し、東西それぞれA、B2つに分けられる。遺跡のある段丘面は平坦な部分も残すが、小さな浸食が入り組んで起伏に富み、全体としては西にいく程低くなる。標高はA地区38m、B地区21m。現況は畑地、水田、山林で、松が植林されている。

6．範囲・時代・性格

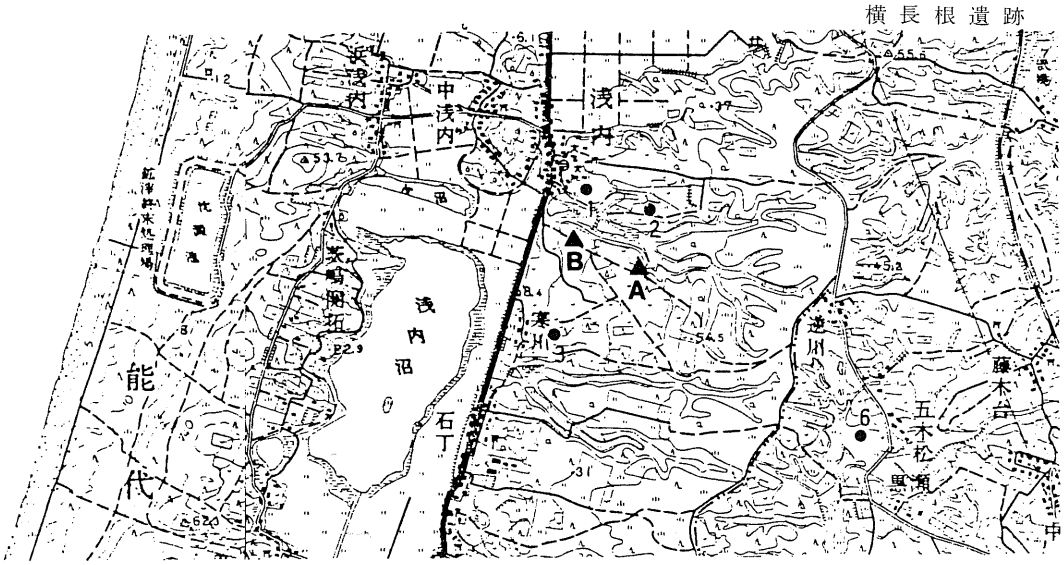
A地区からは古代の竪穴住居跡、土壙などの遺構が確認され、土師器などの遺物の他、縄文時代後期と思われる土器片がわずかに出土した。B地区からは縄文時代後期頃と思われる土器片が若干出土し、土壙、溝状遺構が確認された。A地区は平安時代の集落跡と思われる。

7．地層（深さ）

開田のため一部地山まで削平されたところもある。基本層序はI層暗褐色砂質耕作土、II層黒褐色土、III層暗褐色土、IV層地山黄褐色ローム土。地表から地山までは平均で40～50cm、深いところで90cm位である。

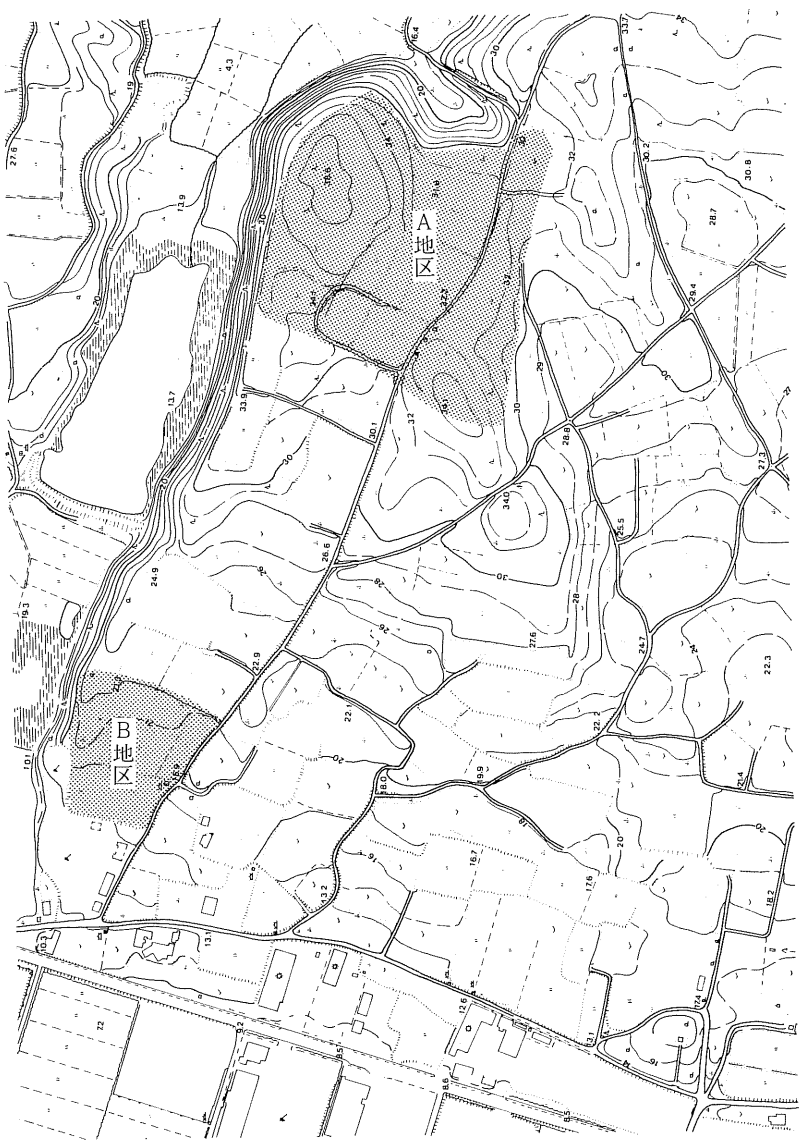
8．その他の特記事項

分布調査の際、本遺跡の南側を清水上遺跡としていたが、調査の結果、遺物も極くわずかで、遺構も全く確認できなかった。

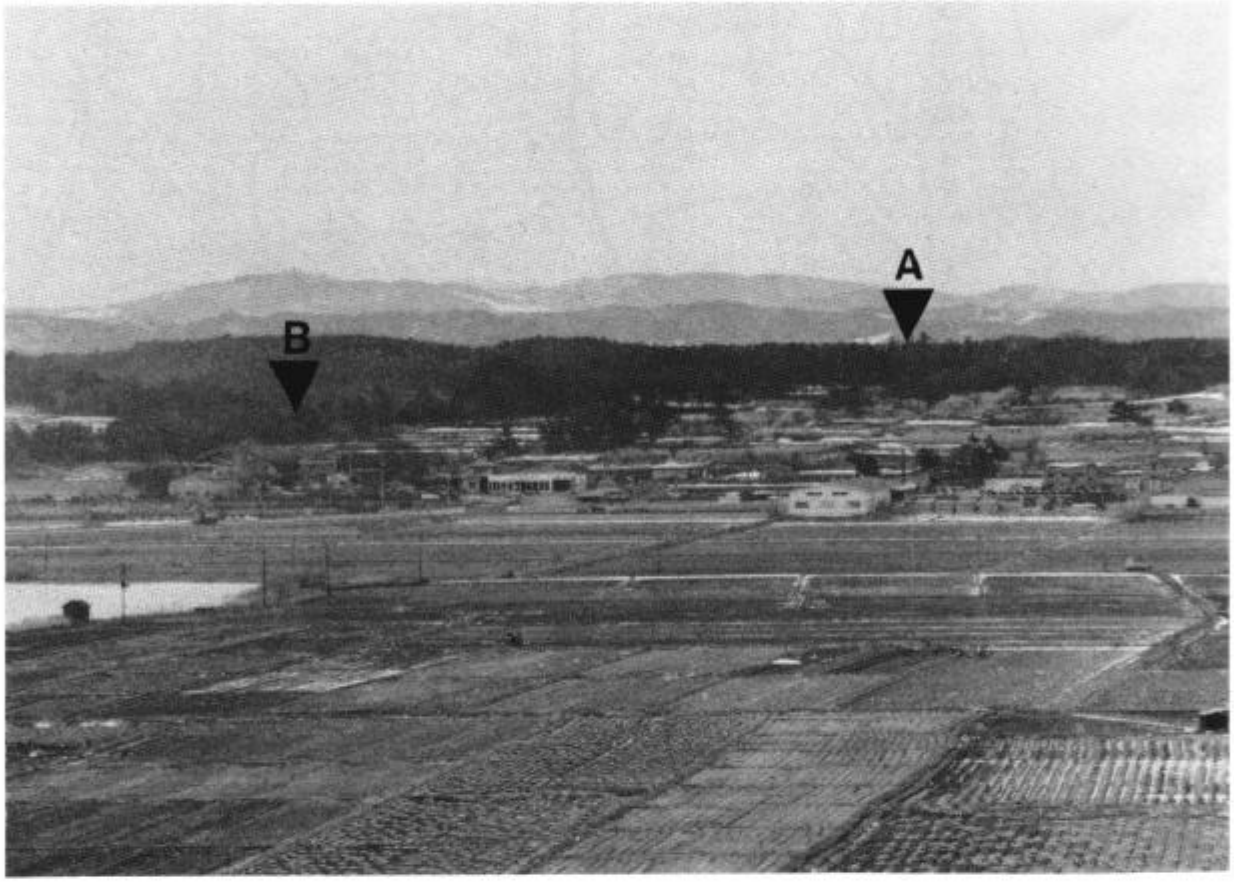


▲ 位置図 (1/5万)

第3図 横長根遺跡

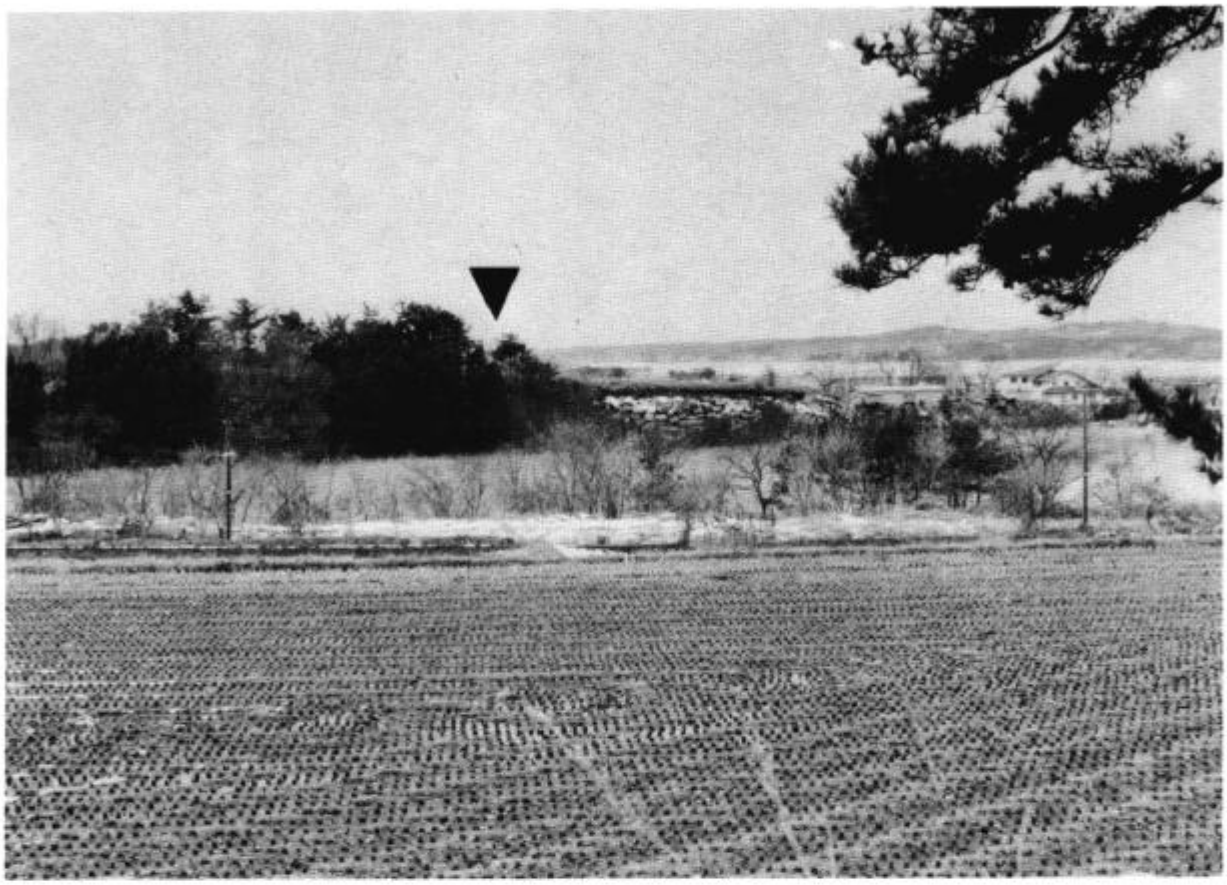


◀ 範囲図

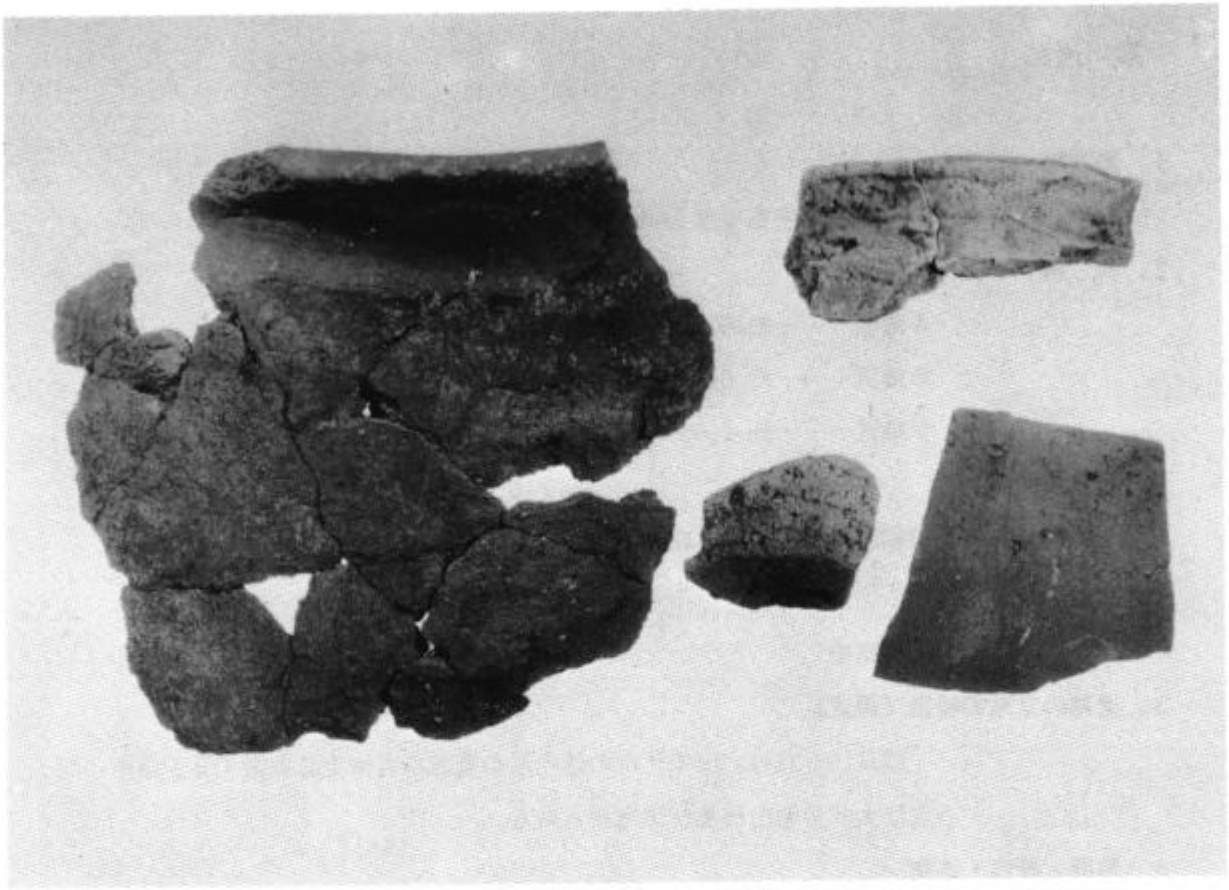


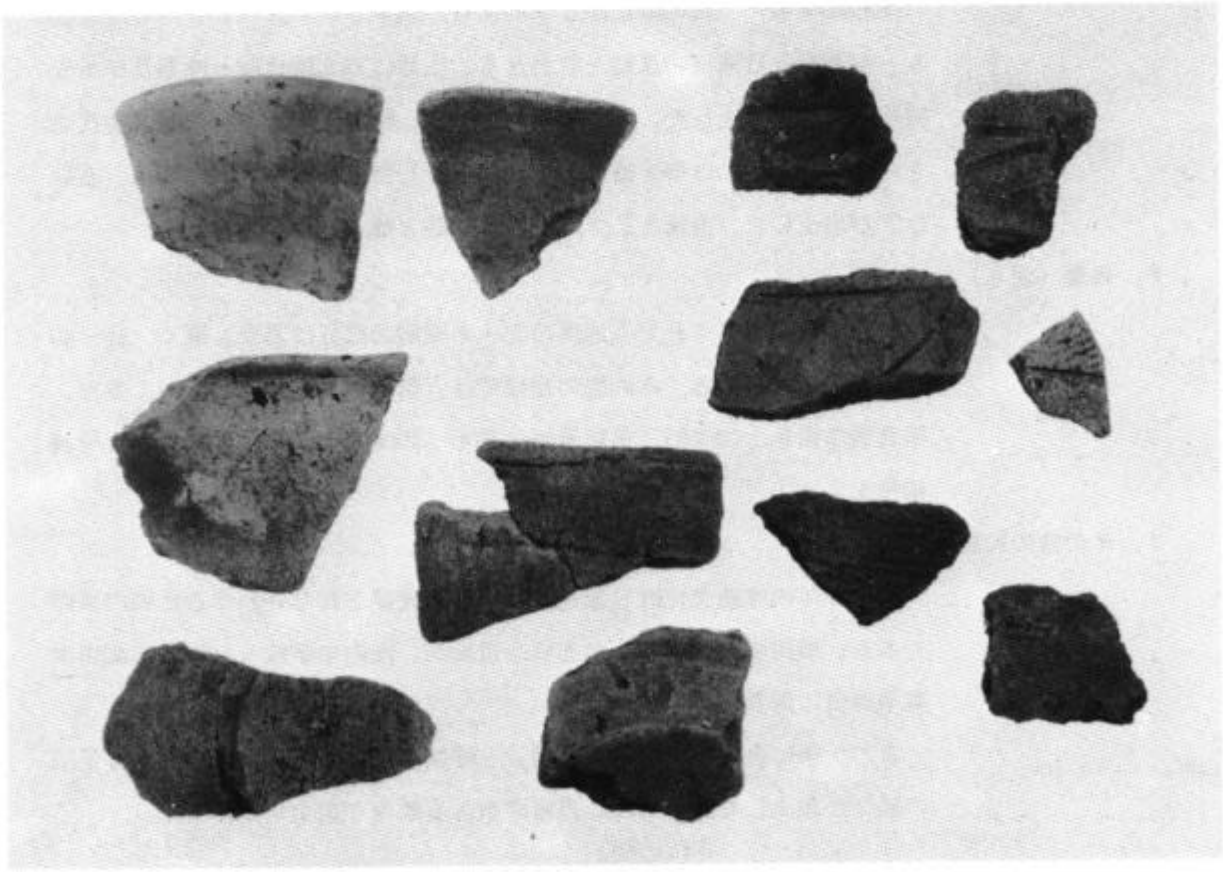
図版２　横長根遺跡　上　遠景（西▶）
下　Ａ地区近景（南▶）

図版3　横長根遺跡　上　A地区土壙
下　A地区貼床（竪穴住居跡）



図版4　横長根遺跡　上　B地区近景（北▶）
下　B地区土壙・溝跡





図版5　横長根遺跡A、B地区出土遺物

寒川遺跡

1．所在地

能代市浅内字寒川家上40番地他

2．面　積

A地区……約36,200m²

B地区……約 5,000m²

C地区……約 2,000m²

3．調査期間

昭和57年11月17日～12月２日

4．調査者

橋本高史

5．遺跡の立地の特徴（現況）

標高15～25m、旧米代川の浅内沼の東方の台地上に位置する。遺跡の現況は大部分を山林及び畑地が占める。

6．範囲・時代・性格

昭和40年頃の開田の際にかなりの部分が削平されており、A～C地区とも、もともとは同一の遺跡と思われる。土器は縄文時代前～晩期及び平安時代のものが出土した。A地区においては、概して南側からは縄文時代のものが、北側からは平安時代のものが出土した。石器は石鏃、石錘、石匙などが出土した。遺構としては竪穴住居跡と焼土遺構を検出した。

7．地層（深さ）

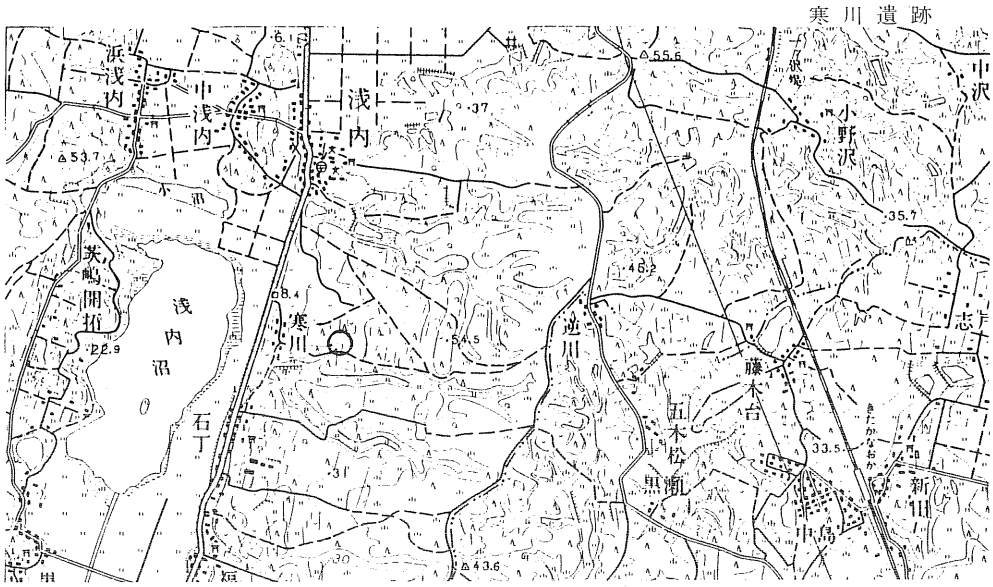
開田の際に削平されたA地区の北・南東側の部分は表土も薄く、15～40cm程で地山に達する。その他の地域では、第Ⅰ層黒褐色土(30cm)：表土、第Ⅱ層黒褐色土(20cm)、第Ⅲ層暗褐色土（20cm）：遺物包含層、第Ⅳ層黄褐色土：地山。

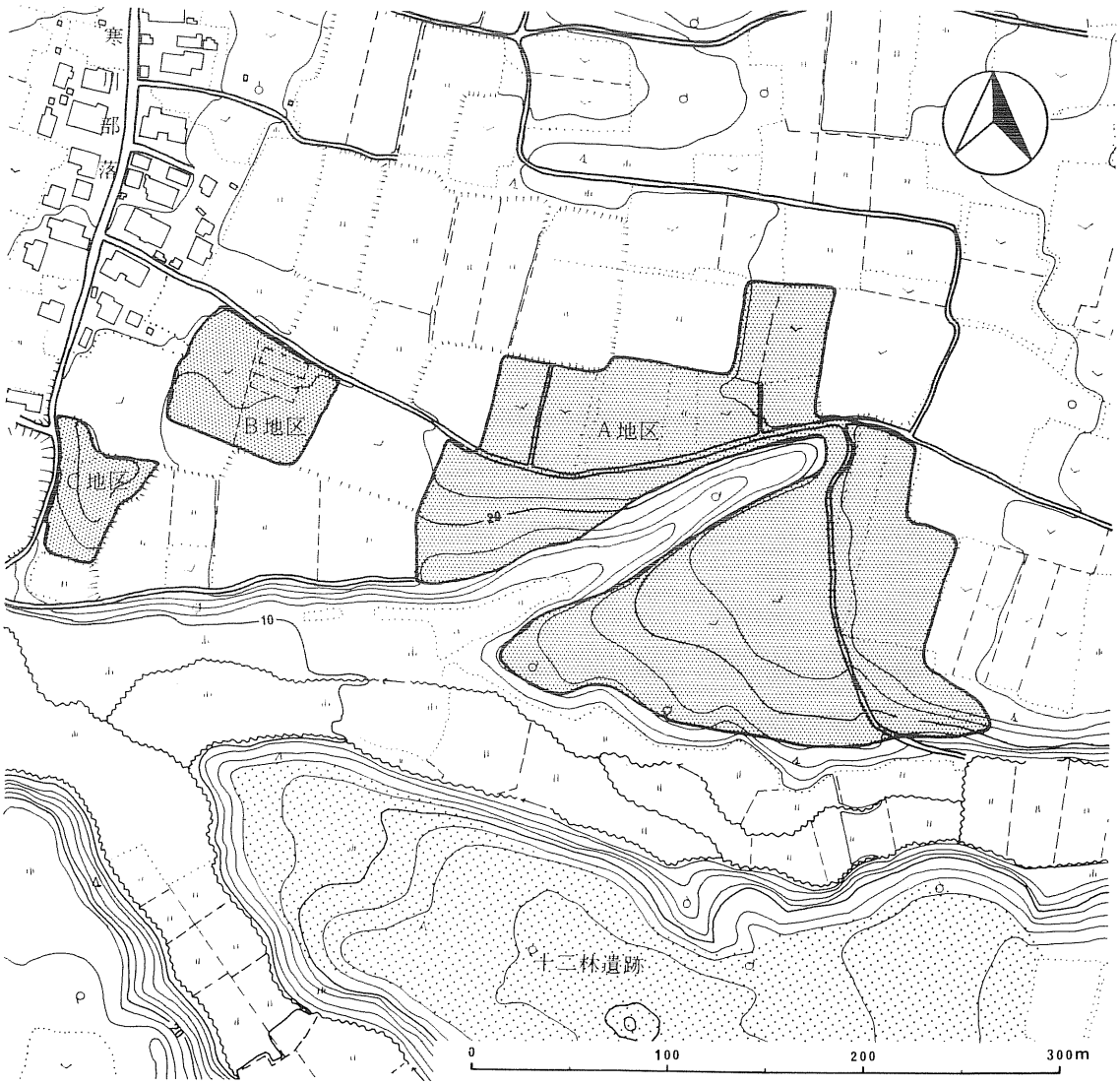
8．その他の特記事項

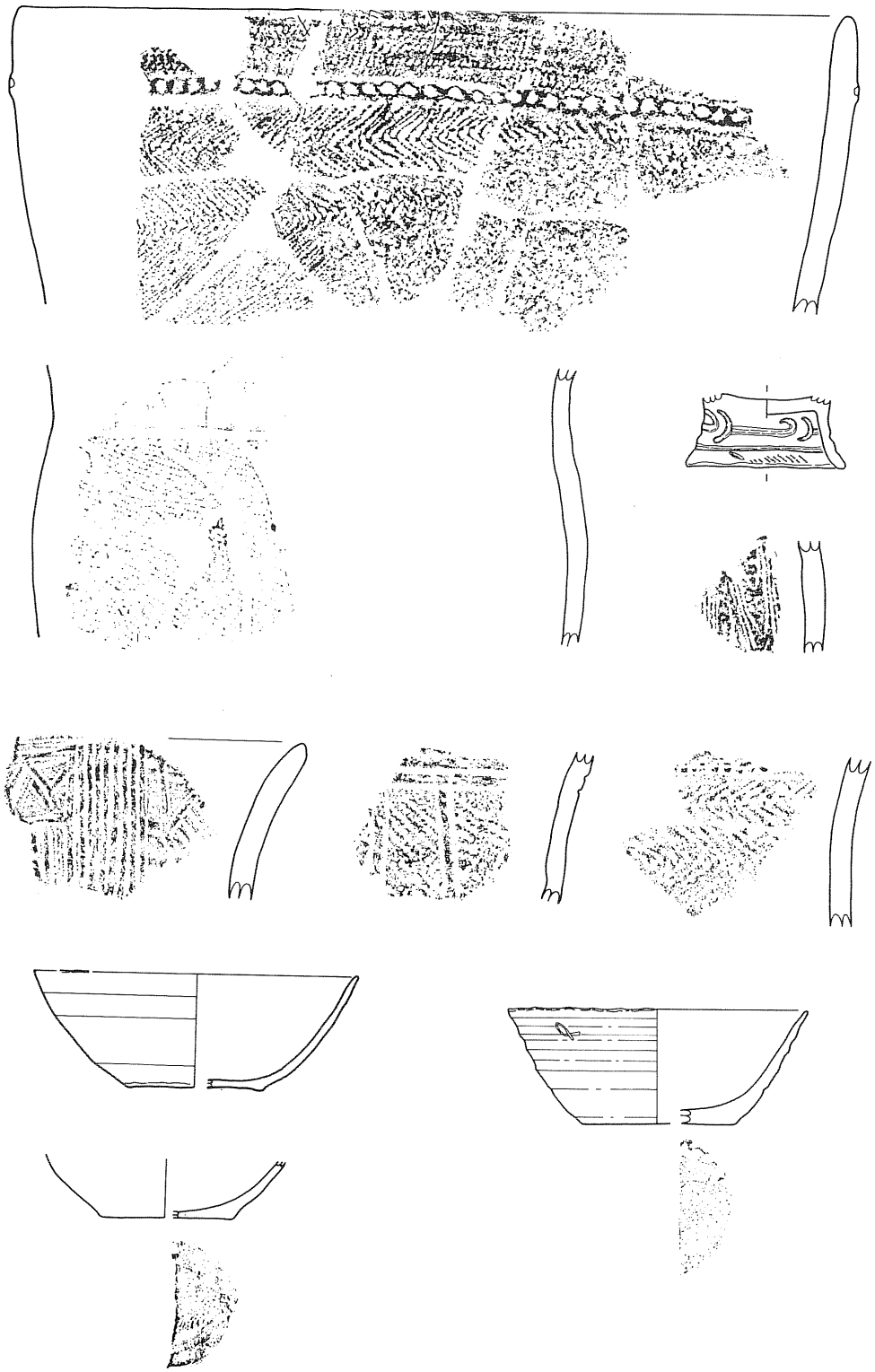
昭和48年の埋蔵文化財包蔵地調査の際に確認されたいわゆる周知の遺跡である。開田の際に出土したという遺物が、浅内中学校及び能代市武田孝義事務所に保管されている。

また、南にある台地は「鍛冶場」と呼ばれ(十二林遺跡)、耕作中に多数の鉄滓が出土したというが、当遺跡からも鉄滓が出土した。

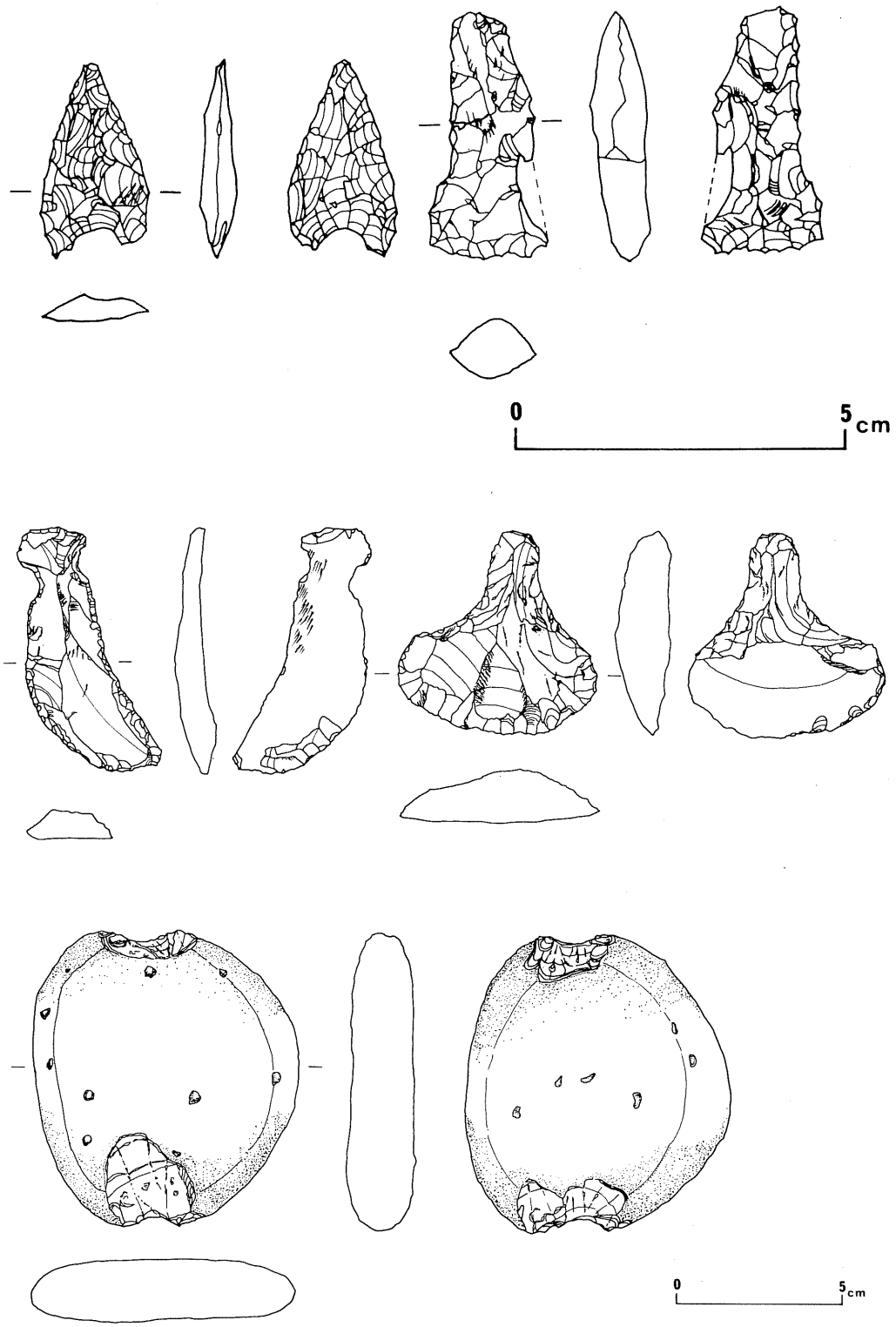
第4図 ▶ 位置図（1/5万）
寒川遺跡 範囲図 ◀





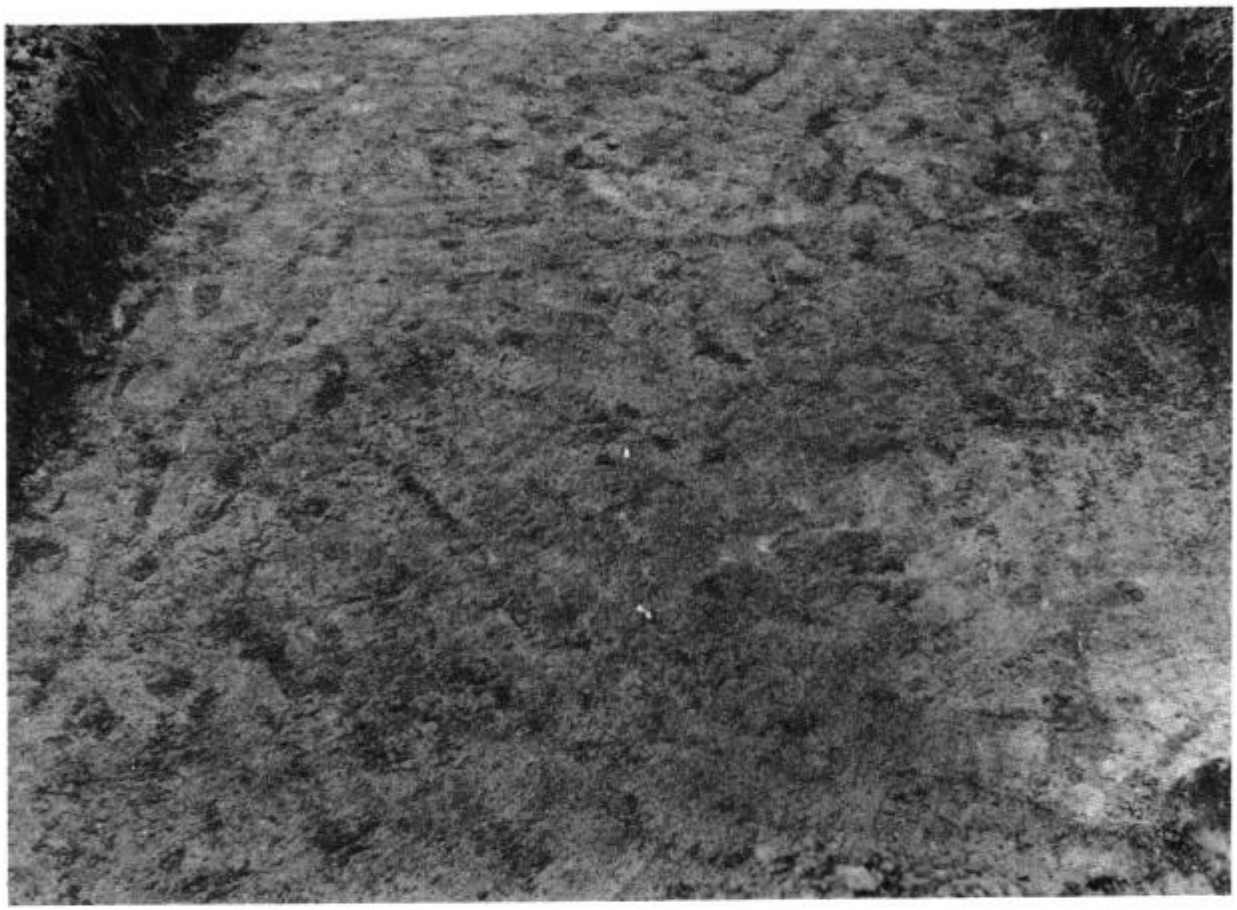


第５図　寒川遺跡出土土器実測図　0　10cm

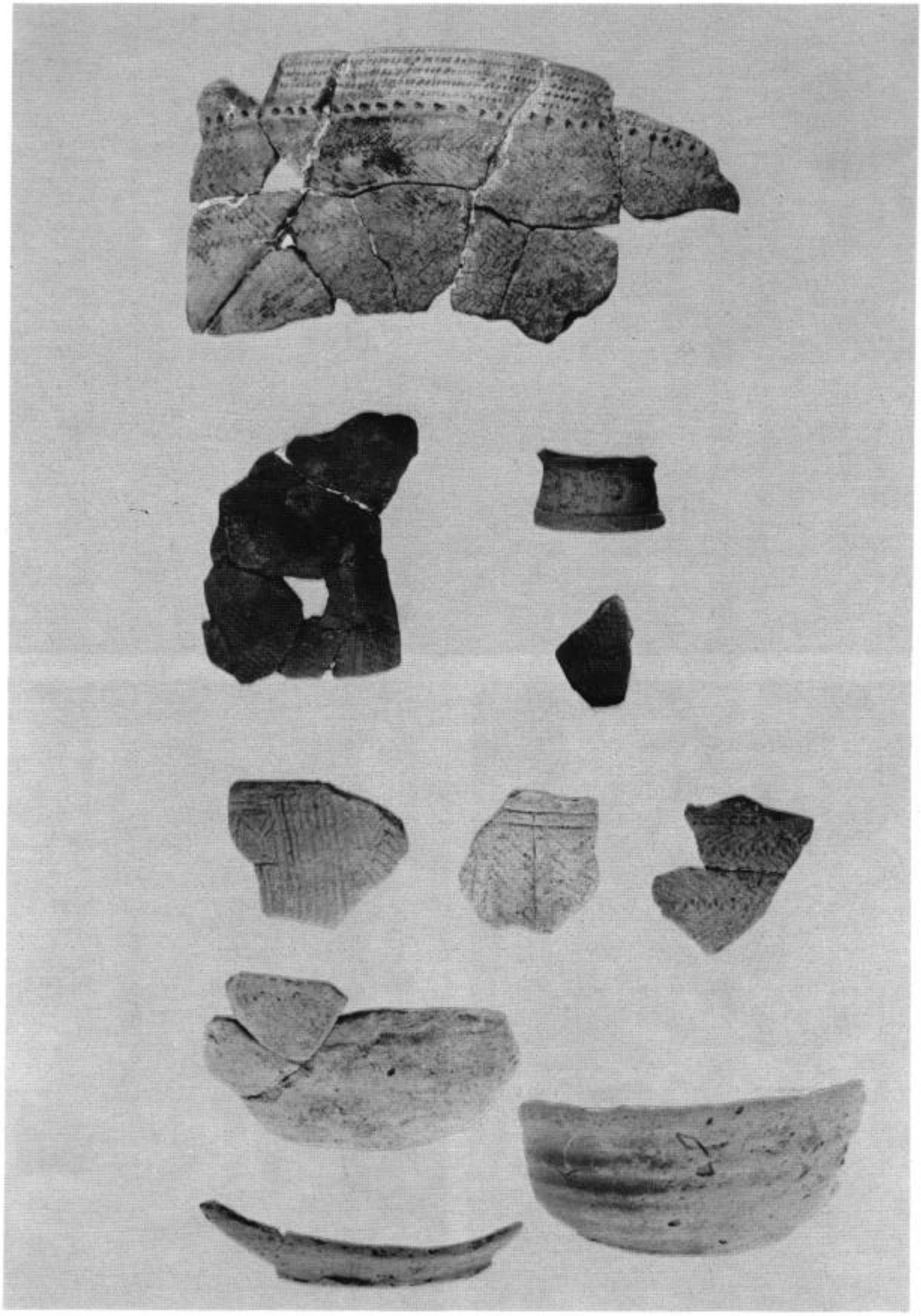


第6図　寒川遺跡出土石器実測図

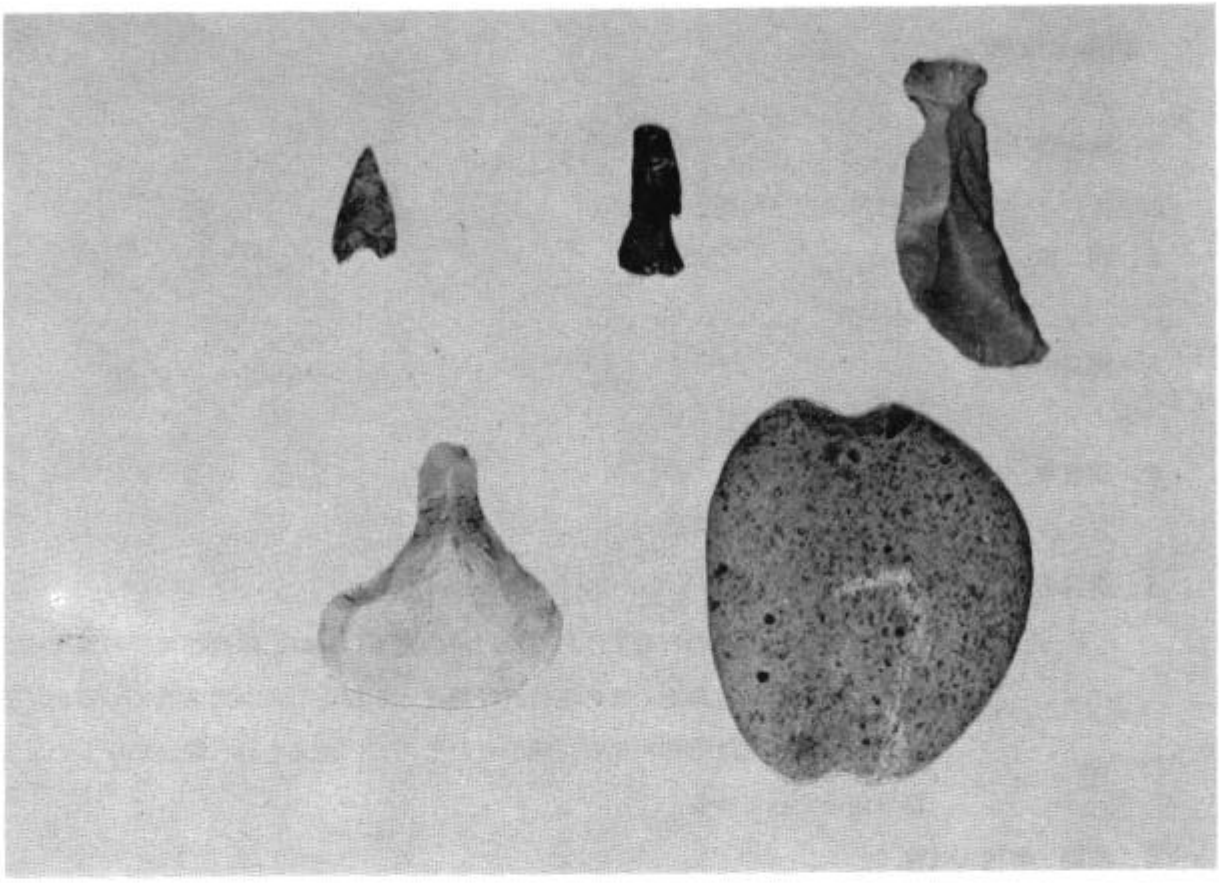
図版6　寒川遺跡遠景　（東▶西）

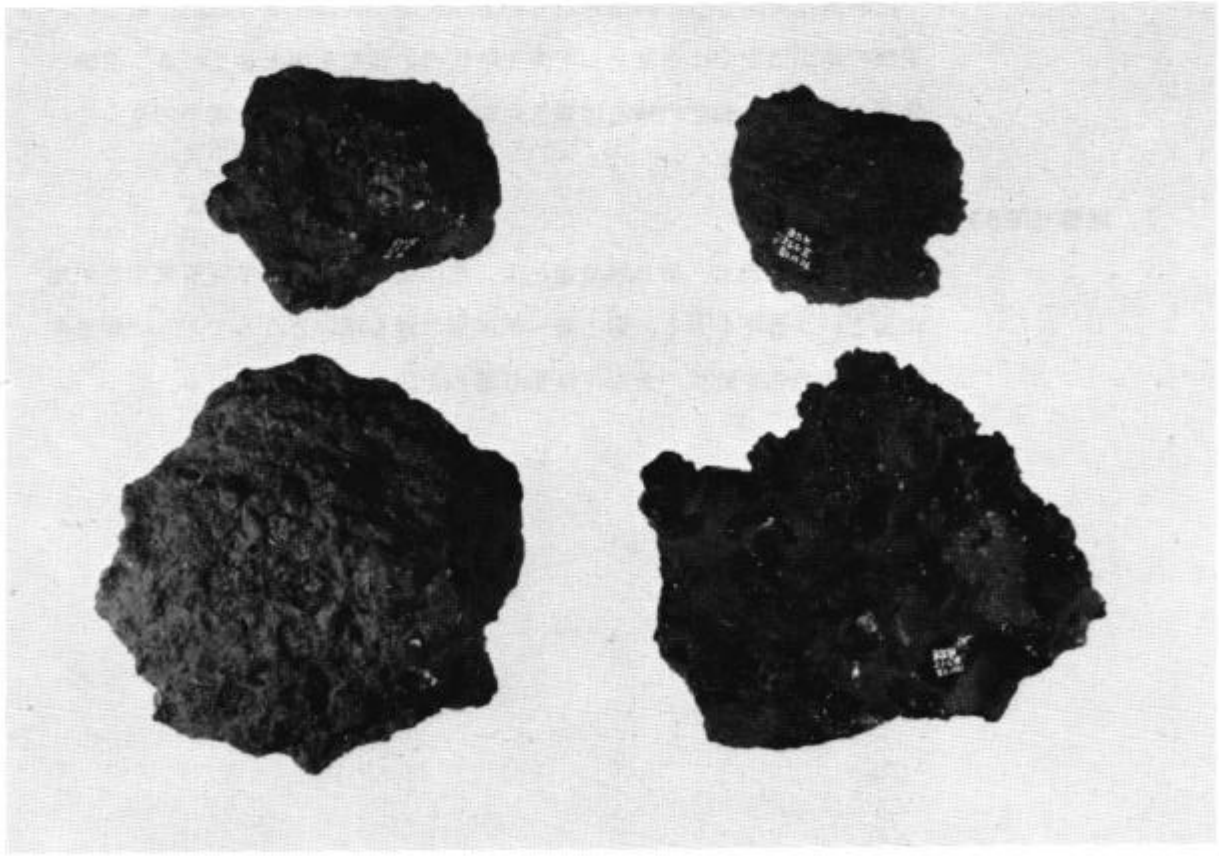


図版7　寒川遺跡　上　遺構検出状態
左下　遺物出土状態
右下　焼土検出状態



図版8　寒川遺跡出土遺物（1）





図版9　寒川遺跡出土遺物　(2)

頭無上遺跡

1．所在地

能代市浅内字頭無上

2．面　積

4,000m²

3．調査期間

昭和57年11月17日～12月２日

4．調査者

小林　克、　三嶋隆儀

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は旧米代川の河道上にある浅内沼の南方1.1km程、標高23ｍ程の河岸段丘上にある。遺跡地を含めて付近は畑地と水田として利用されているが、これらの耕作地は昭和40年頃に開かれたもので、整地を行う際にかなりの部分削平されている。

6．範囲・時代・性格

遺跡地は畑地として利用されているが、地山面はかなり凹凸が激しい。遺構の検出はなく、遺物として弥生時代の土器片を出土している。遺構の検出がないため範囲の特定は難しいが、耕作の際の攪乱、削平の及んでいない箇所を範囲とした。

7．地層（深さ）

第Ⅰ層黒褐色土、第Ⅱ層暗褐色土、第Ⅲ層明褐色土、第Ⅳ層黄褐色土地山面という層序をとる。第Ⅰ層～第Ⅲ層は最も深いところで120㎝程を測る。遺物の弥生時代の土器片は第Ⅱ層の上位から出土している。

成合遺跡Ａ地点

１．所在地

能代市浅内字成合

２．面　積

4,400m²

３．調査期間

昭和57年11月17日～12月２日

４．調査者

小林　克、　三嶋隆儀

５．遺跡の立地の特徴（現況）

米代川旧河道の標高30ｍ前後の河岸段丘上に位置する。段丘は能代市と八竜町の境で小浸食谷により開折され沼地となっているが、遺跡地はこの沼地に面しての段丘西南端にある。現在は畑地として利用されている。

６．範囲・時代・性格

遺跡地は西南へ向う傾斜面を含むが、この傾斜面から縄文時代の石鏃及び剝片が採集されている。遺構を検出してはいないが、縄文時代の集落の営まれていた可能性が強い。

７．地層（深さ）

耕作土（20～30cm）を除去すると地山層に達する。傾斜面下方では若干厚さが増すようである。

成合遺跡B地点

1．所在地

能代市浅内字成合

2．面　積

10,400m²

3．調査期間

昭和57年11月17日～12月２日

4．調査者

小林　克、三嶋隆儀

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は旧米代川の河岸段丘西端から3.2km程東へ入った標高30m程の台地上にある。南側は東西に伸びる沼地となっており、沼地の水面との比高は10mを測る。遺跡地の西側は水田となっており、開田の際削平されて破壊されている。遺跡地の現況は山林と一部畑地となっている。

6．範囲・時代・性格

遺跡地は前述のように畑地と山林であるが、トレンチ及び坪掘りの結果では、遺物は南側の沼地に面した台地先端近くから多く出土している。遺物内容は、縄文時代後期の沈線文の施された土器片、石匙、剥片等である。遺構の確認はないが、縄文時代後期の集落跡の可能性が強い。

7．地層（深さ）

第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層黄褐色土地山面である。遺物は第Ⅱ層上部から出土する。第Ⅰ層～第Ⅱ層までは厚さおよそ40～60cm程を測る。

成合遺跡C地点

1．所在地

能代市浅内字成合

2．面　積

10,200m²

3．調査期間

昭和57年11月17日～12月２日

4．調査者

小林　克、　三嶋隆儀

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は浅内沼の南方1.5km程の河岸段丘上にある。頭無上遺跡からは東南の方向へ400m程離れた地点にある。遺跡は西方に向う緩い斜面上にあり、畑地及び一部は山林として利用されている。

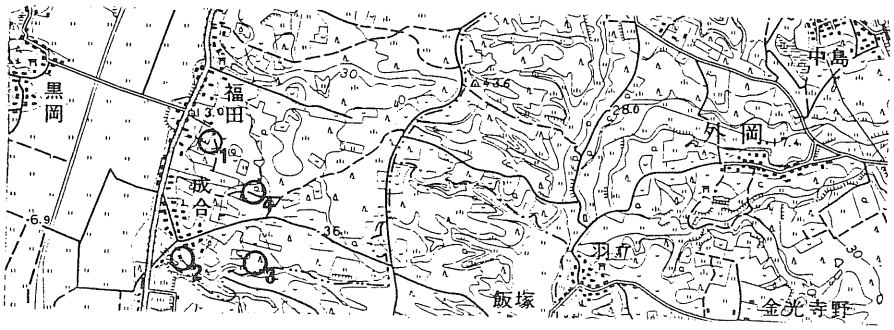
6．範囲・時代・性格

縄文時代の所産と思われる石鏃１点を採集している。他に扁平な礫の一部に打撃を加えて刃を付けた石器及び自然礫の一部に穿孔し他の石を詰めた石製品等が出土している。縄文時代の集落跡の可能性が考えられる。

7．地層（深さ）

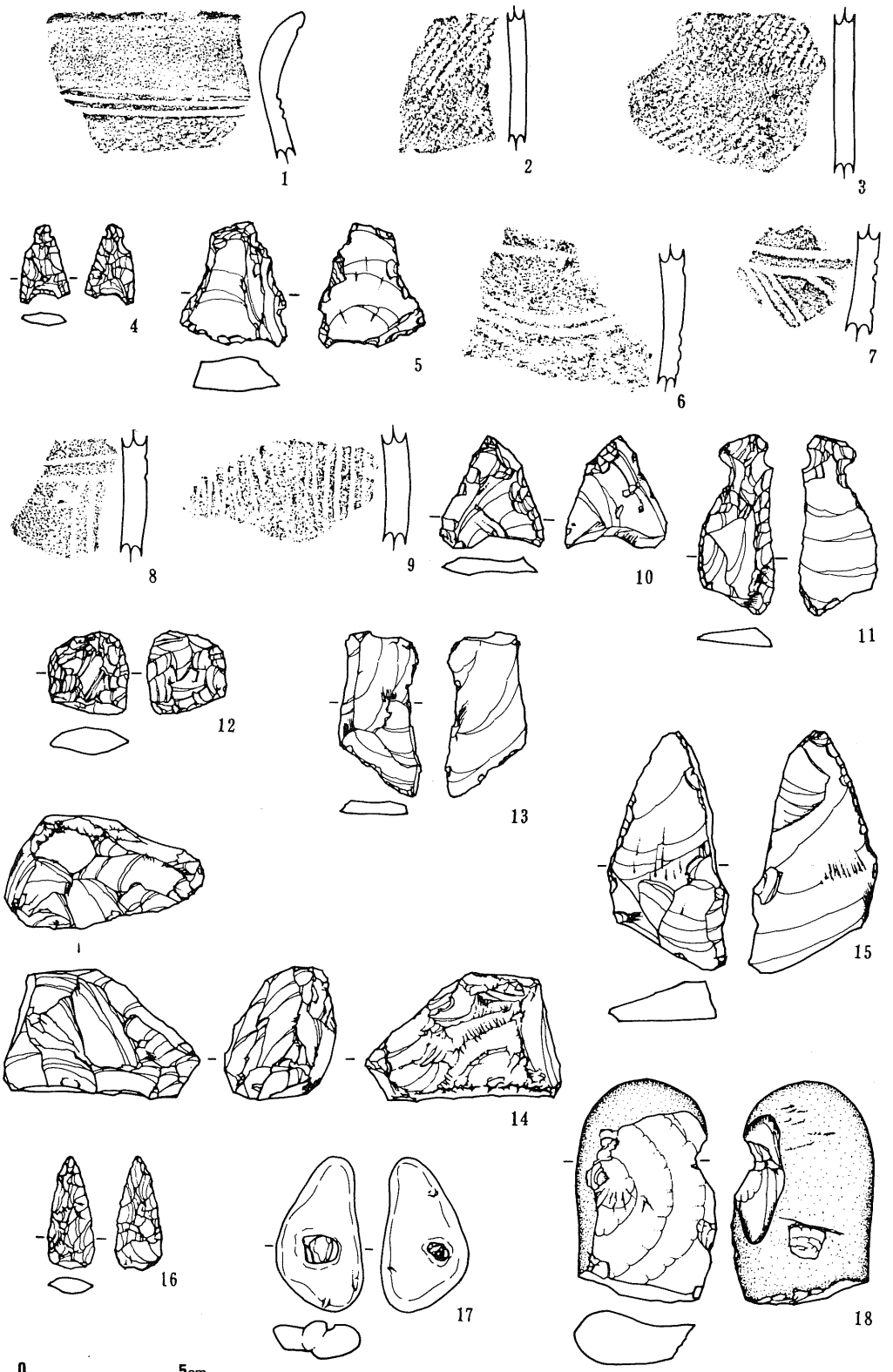
60～70cm程の耕作土を除去すると黄褐色土の地山面に達する。耕作土は攪乱が夥しく、植物根等の混入も多い。

1．頭無上
2．成合A
3．成合B
4．成合C

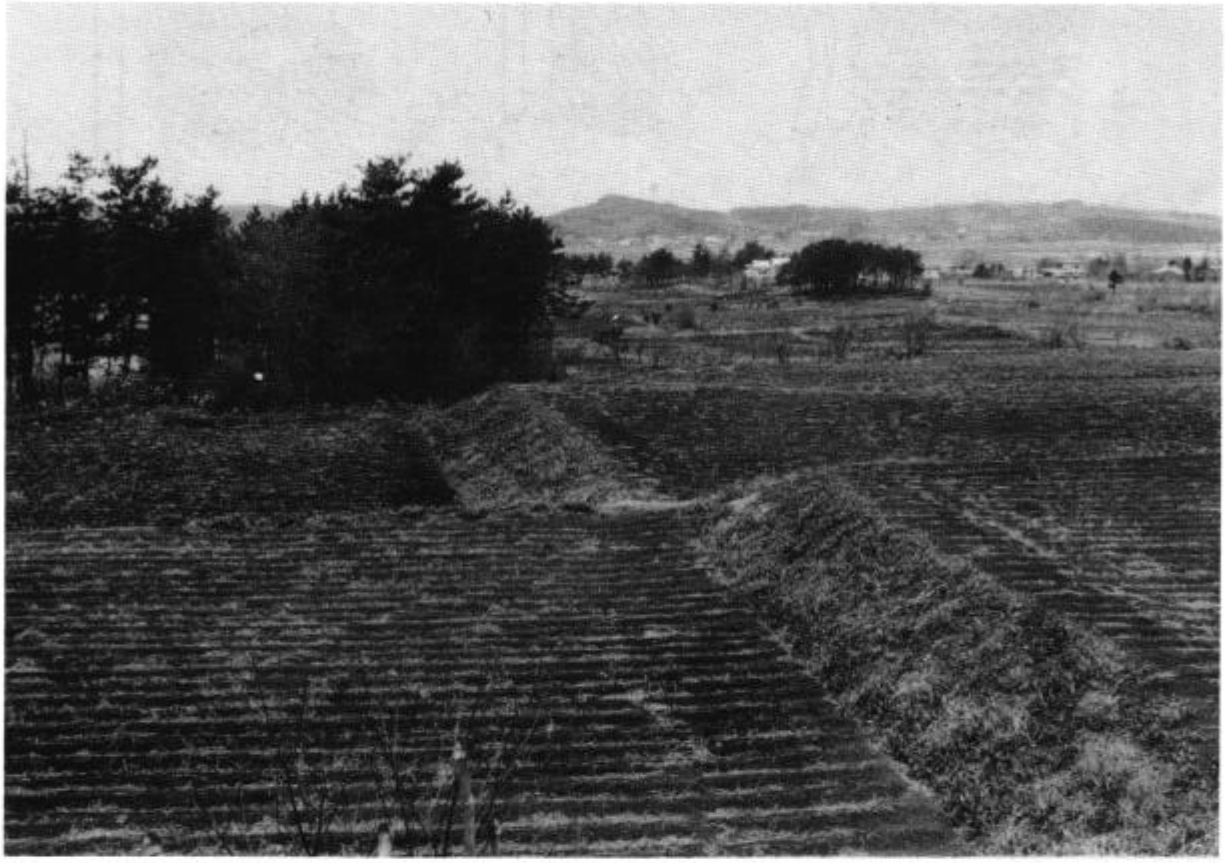


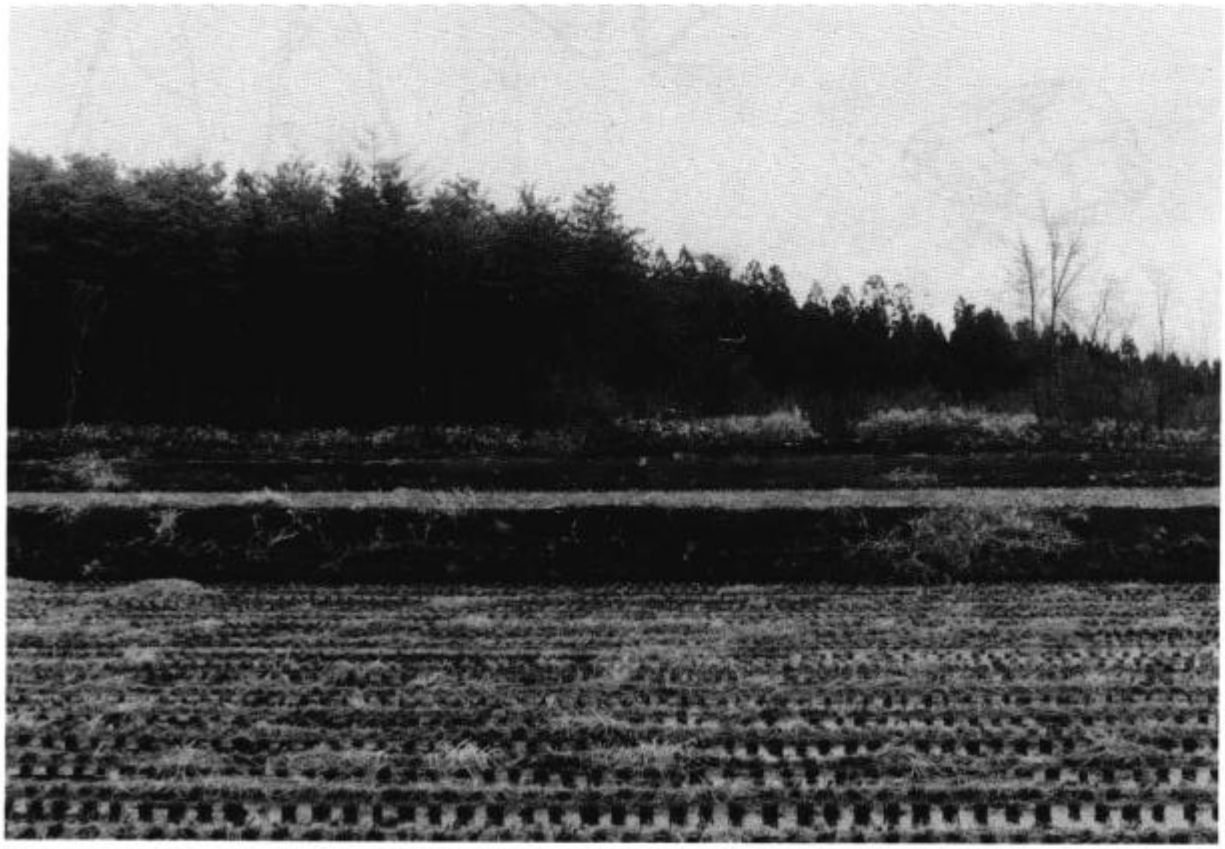
◀ 第7図 頭無上、成合遺跡位置図

第8図　頭無上遺跡、成合遺跡各地点範囲図

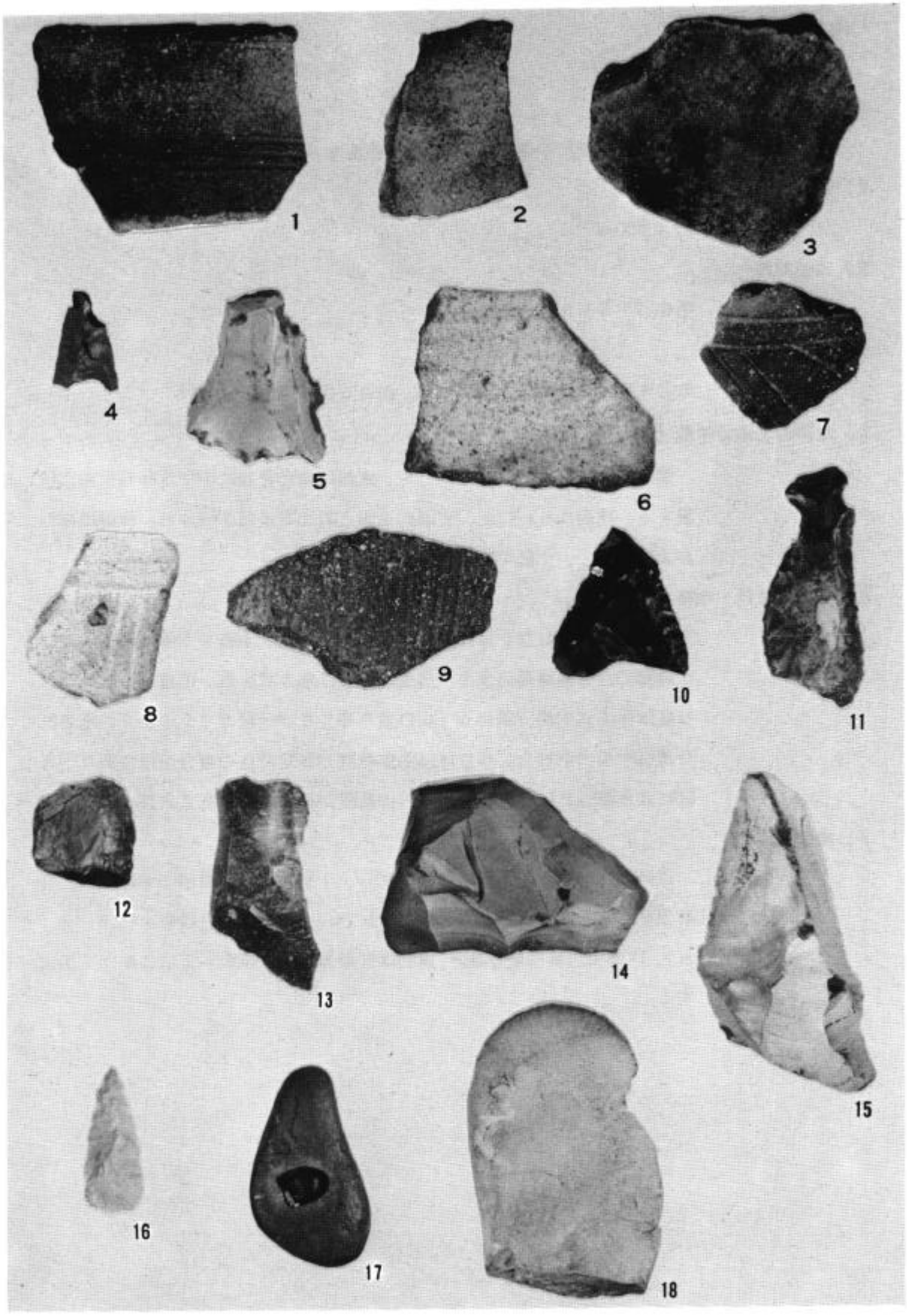


第９図　頭無上遺跡、成合遺跡各地点出土遺物
（１～３頭無上、４・５成合Ａ、６～15成合Ｂ、16～18成合Ｃ）





図版10　頭無上遺跡、成合遺跡B地点全景



図版11　頭無上遺跡、成合遺跡各地点出土遺物
（1～3頭無上、4・5成合A、6～15成合B、16～18成合C）

横長根遺跡（若美町）

1．所在地

南秋田郡若美町小深美字横長根290番地他

2．面　積

約 6,200m²

3．調査期間

昭和57年５月26日～６月２日

4．調査者

熊谷太郎、大高博康、米川一郎、桧森好広

5．遺跡の立地の特徴（現況）

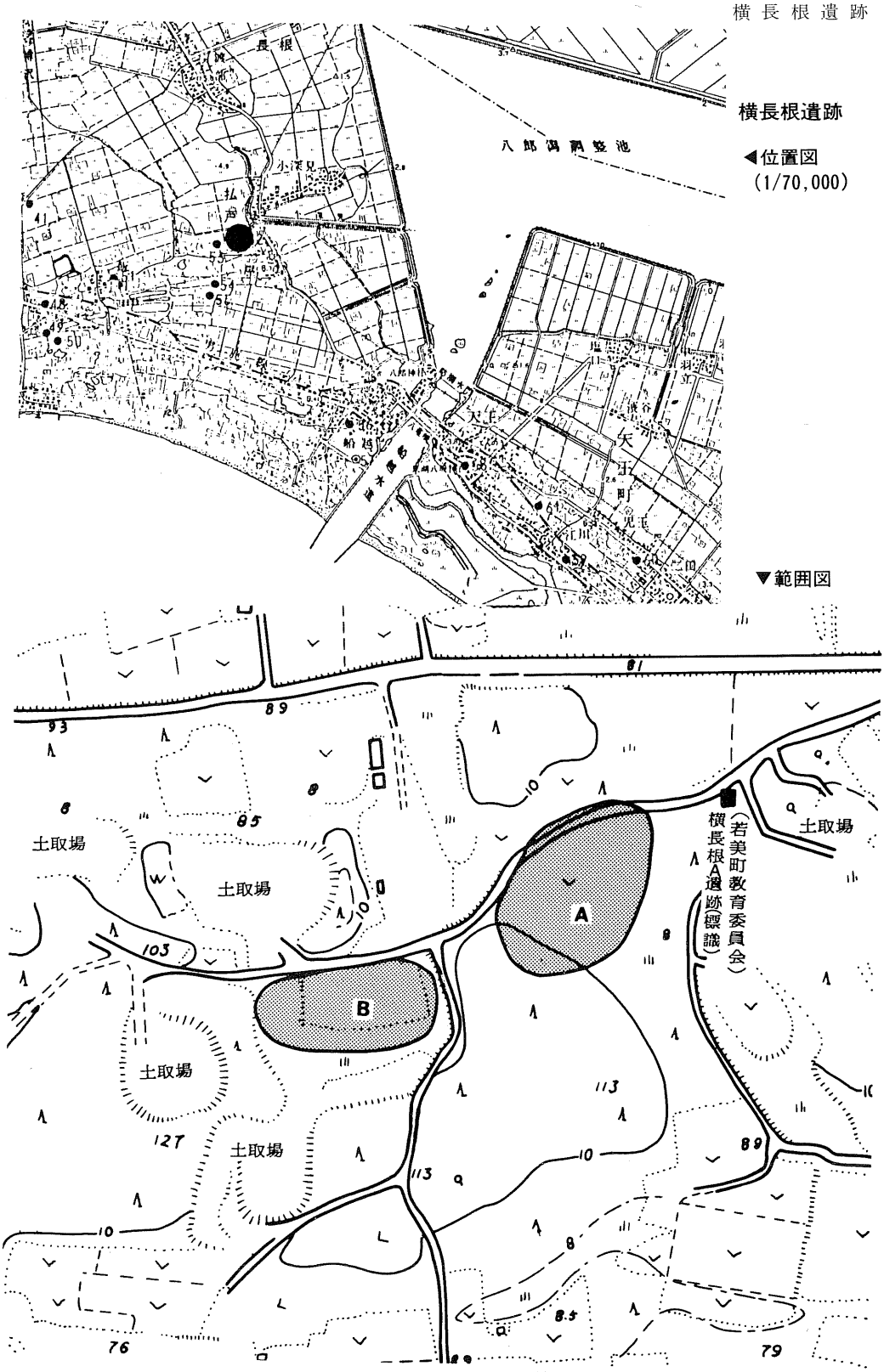
遺跡は若美町小深見部落西方で、東西に馬の背状にのびる砂丘東端に位置する。標高は９～11ｍ、周囲の水田との比高差は２～３ｍ。現況は山林および畑地で、一部では土取りが行われていた。

6．範囲・時代・性格

遺構は検出されなかったが、出土遺物は弥生式土器を主体に須恵器及び土師器で、Ⅱ層暗褐色土より出土。Ａ区は弥生式土器、須恵器、土師器、Ｂ区は弥生式土器、須恵器（広口壺片等）及び一部カッティングの施された遺材が検出された。本遺跡は弥生時代と平安時代の複合遺跡であり、Ａ区は北東部、Ｂ区は北西部へさらに範囲が拡大すると考えられる。

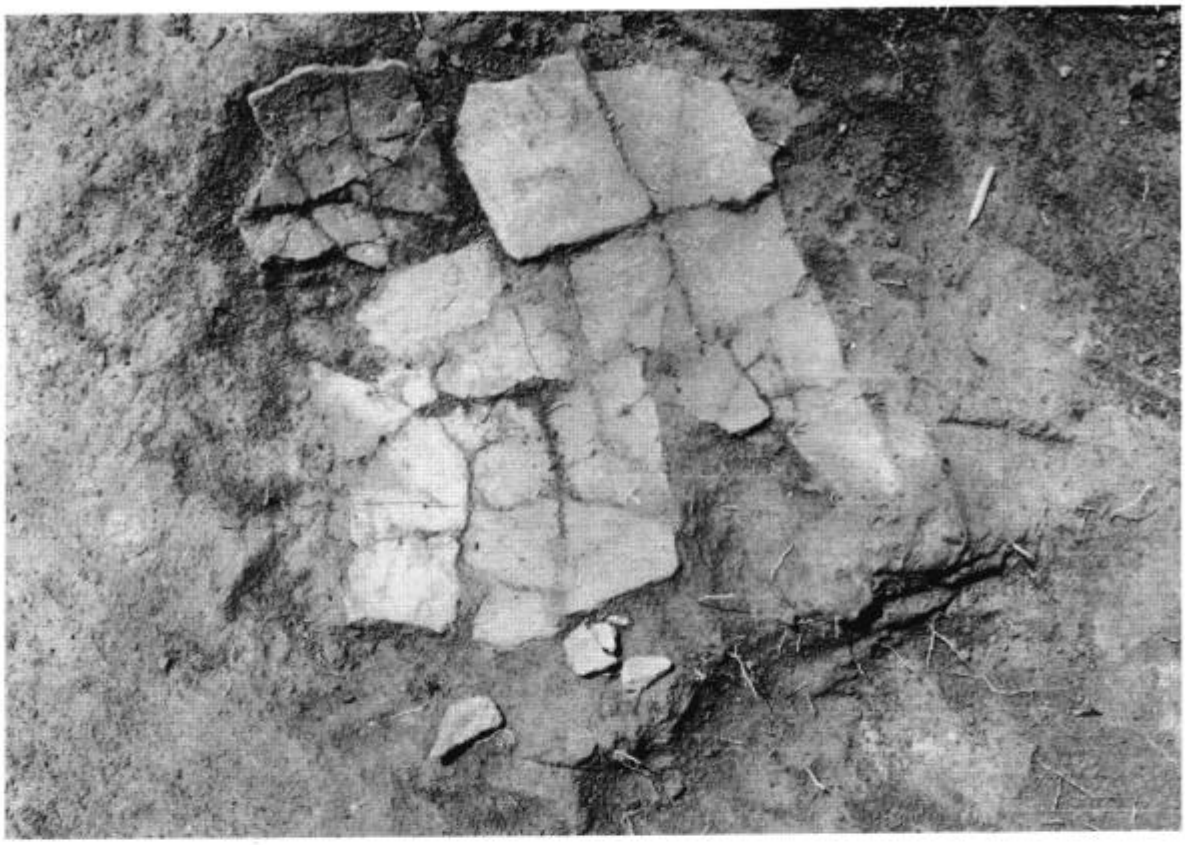
7．地層（深さ）

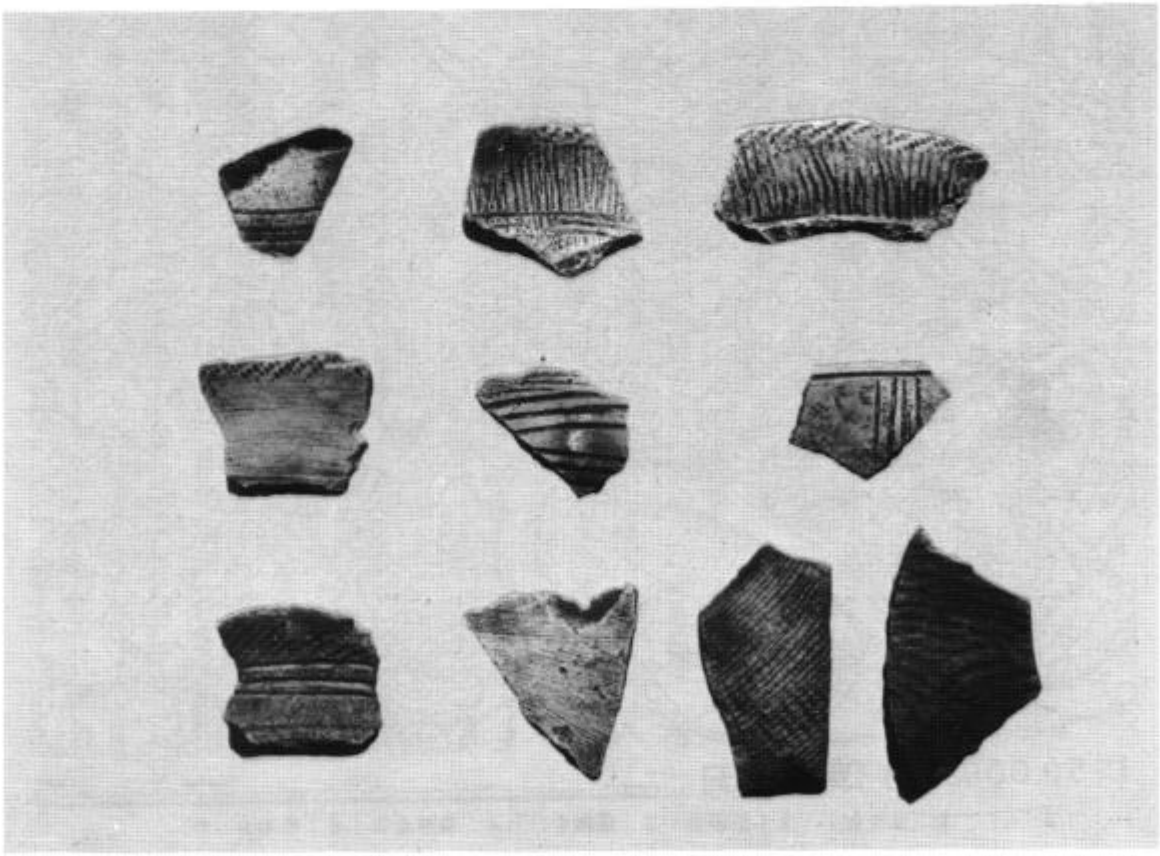
遺跡周辺は砂丘地帯であることから、Ⅰ層灰白色砂層(0.5～1.8ｍ)、Ⅱ層黒色もしくは暗褐色砂質土(0.6～1.2ｍ)、Ⅲ層黄褐色砂質土(0.5～ 1.0ｍ)、Ⅳ層灰白色砂層と続き、遺物はⅡ層黒色土中位から下位にかけて出土する。



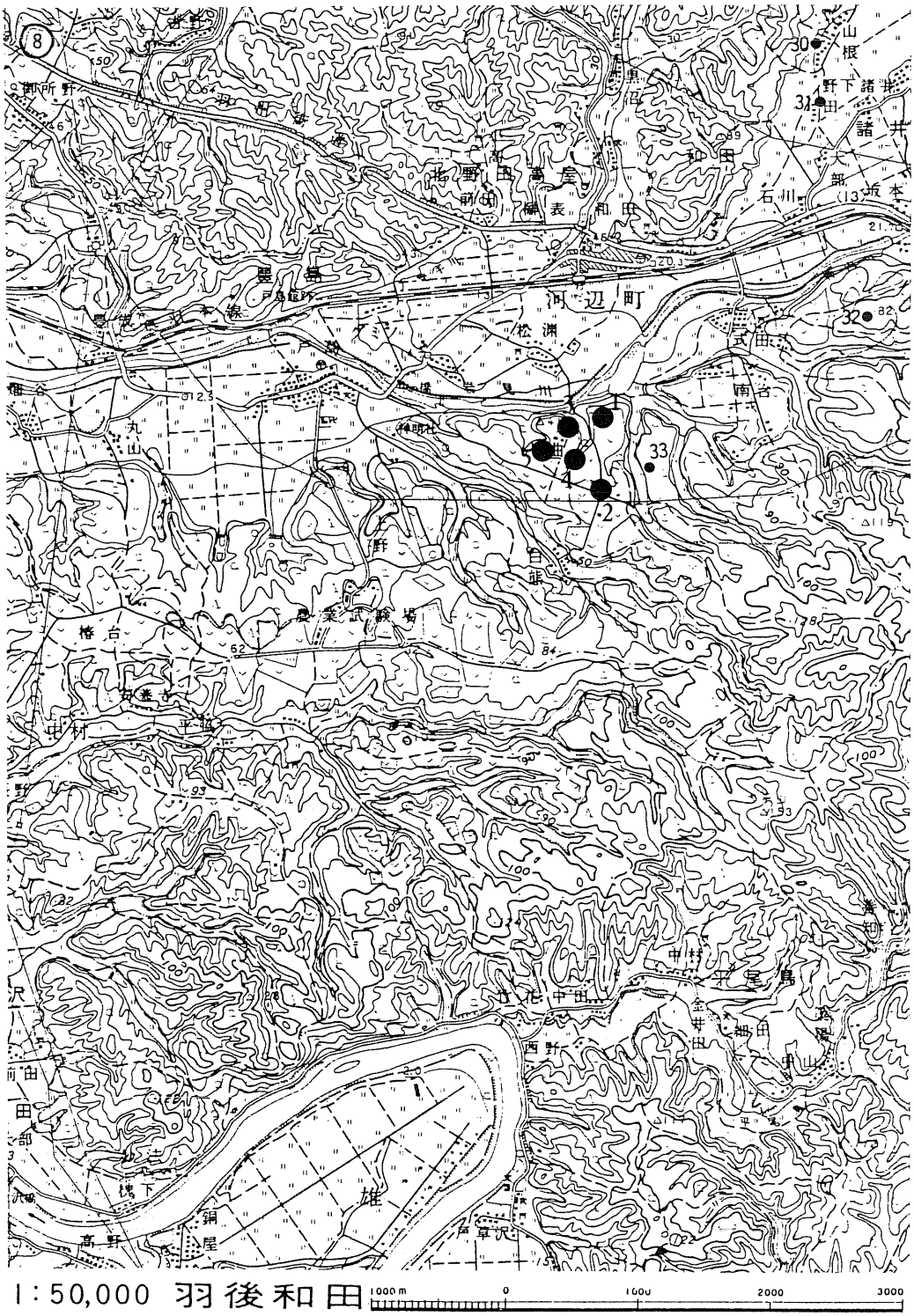
第10図　横長根遺跡位置図、範囲図

図版12　横長根遺跡　上　遠景
下　土層





図版13　横長根遺跡　上　遺物出土状態
下　出土遺物



1：風無台Ⅰ　2：石坂台　3：風無台Ⅱ　4：風無台Ⅲ　5：松木台

第11図　七曲工業団地関係遺跡位置図

風無台遺跡（遺跡番号No.1）

1．所在地

河辺郡河辺町松渕字風無台127番地他

2．面　積

約 1,650m²

3．調査期間

昭和57年11月24日～30日

4．調査者

船木義勝、　池田洋一

5．遺跡の立地の特徴（現況）

雄物川支流の岩見川左岸の段丘上にあり、標高41.8～42.5mの全体に平坦な台地である。遺跡は台地の西端に位置し、舌状に張り出すところで、眼下に岩見川を見下すことができる。

6．範囲・時代・性格

遺跡からは、旧石器時代の石核を含む石器、縄文時代後期の土器、平安時代の須恵器などが出土した。このように、旧石器時代から平安時代までの複合遺跡とすることができよう。

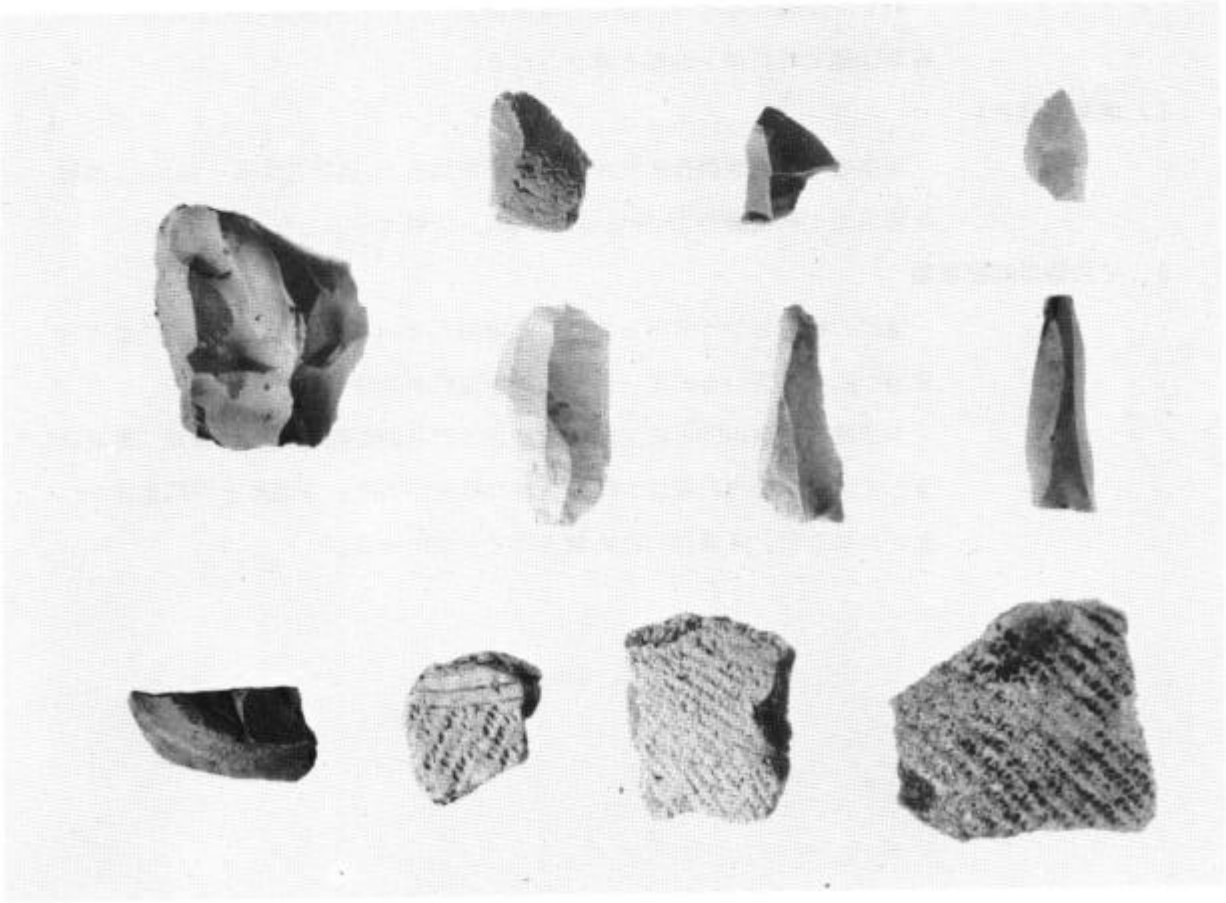
7．地層（深さ）

基本層序はⅠ層耕作土、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層暗褐色土、Ⅳ層ロームとなっている。Ⅰ層からⅣ層上面まで、53～60cmである。

8．その他の時期事項

遺跡の東・南側はすでにブルドーザによって削平されている。遺跡の現況は茅場と畑地となっている。

第12図　風無台Ⅰ遺跡範囲図



図版14　風無台Ⅰ遺跡　上　遠景
下　出土遺物

石坂台遺跡（遺跡番号No. 2）

1．所在地

河辺郡河辺町戸島字七曲台石坂台141番地他

2．面　積

約10,750m²

3．調査期間

昭和57年11月27日

4．調査者

柴田陽一郎、　阿部義行

5．遺跡の立地の特徴（現況）

雄物川の支流、岩見川の左岸の台地上にある。遺跡はほぼ平坦で、北と西は緩斜面となっている。標高は46～48mで、現況は畑、雑木林となっている。

6．範囲・時代・性格

調査では縄文時代の土器と石器が出土したが、遺構は検出されなかった。時期は縄文時代後・晩期と考えられる。

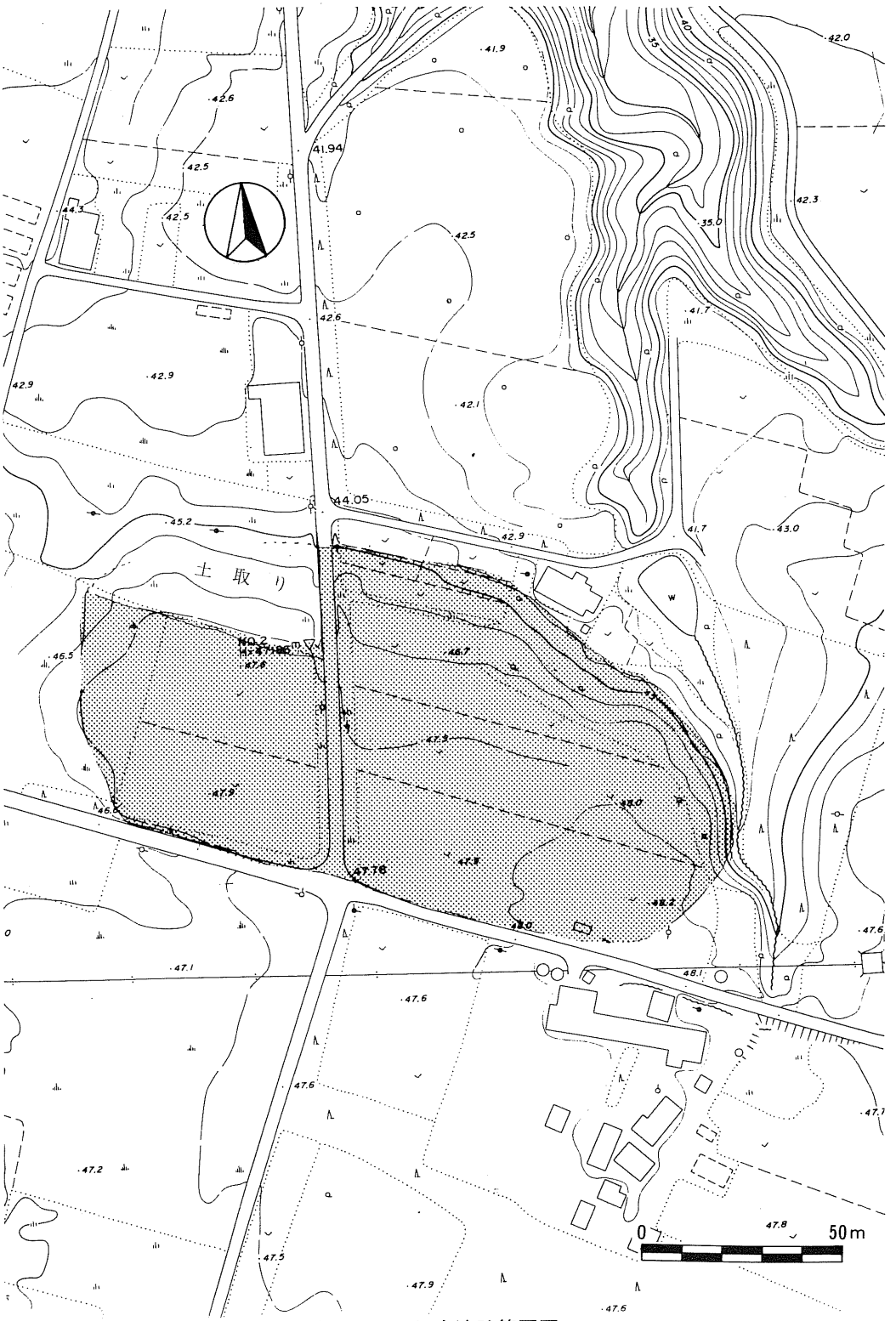
7．地層（深さ）

基本層序はⅠ層耕作土(20cm)、Ⅱ層黒褐色土(遺物包含層―15cm)、Ⅲ層暗褐色土＋明黄褐色土(漸移層―10cm)、Ⅳ層ロームとなっている。

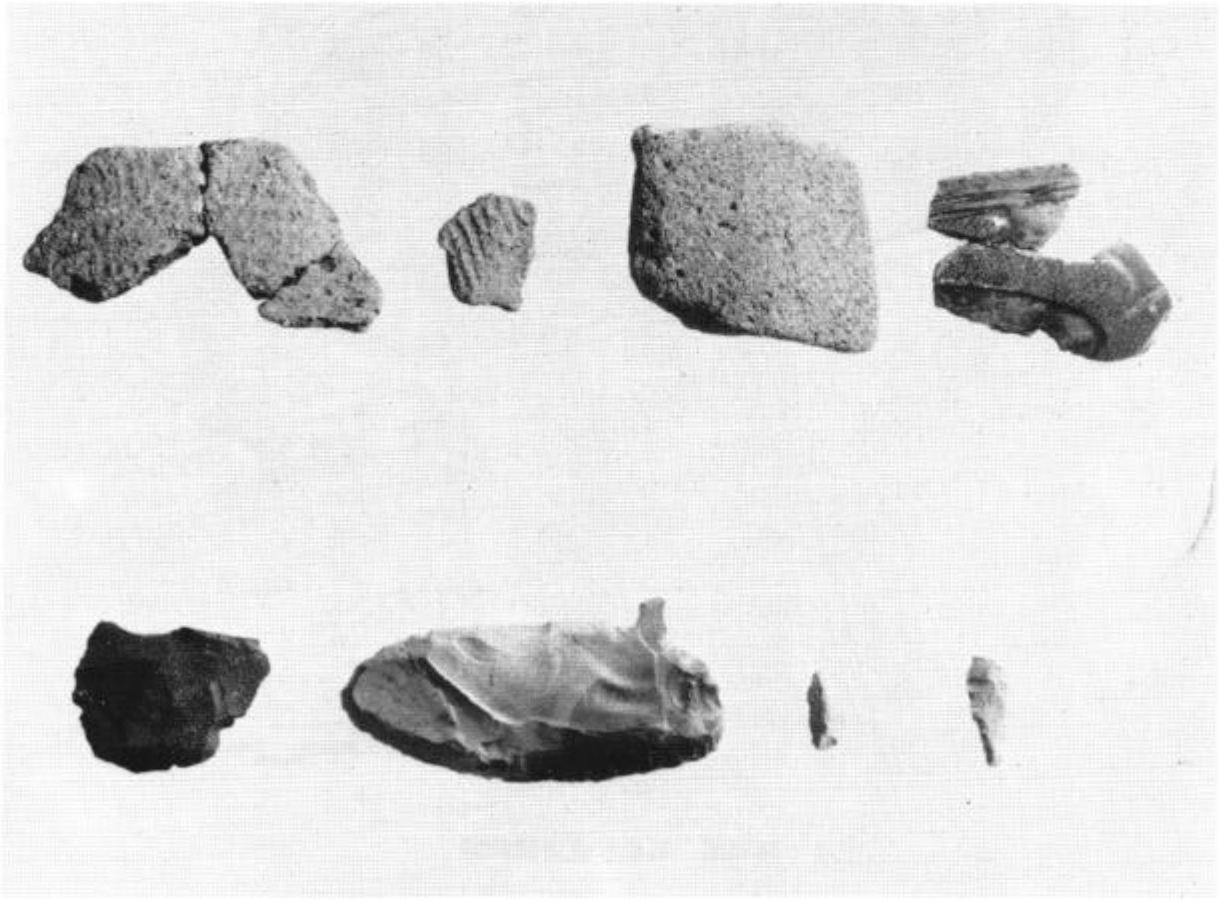
8．その他の時記事項

遺跡の畑地となっている北西側に隣接している緩斜面は土取りにより包含層が削られているので、遺跡の対象面積から外した。

本遺跡の南東約50mに、昭和57年10月27日の範囲確認予備調査（表面調査）で、縄文時代の遺物が採集された場所があり、本遺跡との関連性がうかがわれるが、未買収のため調査はできなかった。



第13図　石坂台遺跡範囲図



図版15　石坂台遺跡　上　遠景
下　出土遺物

風無台II遺跡（遺跡番号No.3）

1．所在地

河辺郡河辺町松渕字風無台110番地他

2．面　積

約10,250m²

3．調査期間

昭和57年11月29日・30日

4．調査者

小玉　準、　高橋　修

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡付近は標高41mで、東側に沢が入り、北側の段丘下に岩見川が西流する。現状は畑地である。

6．範囲・時代・性格

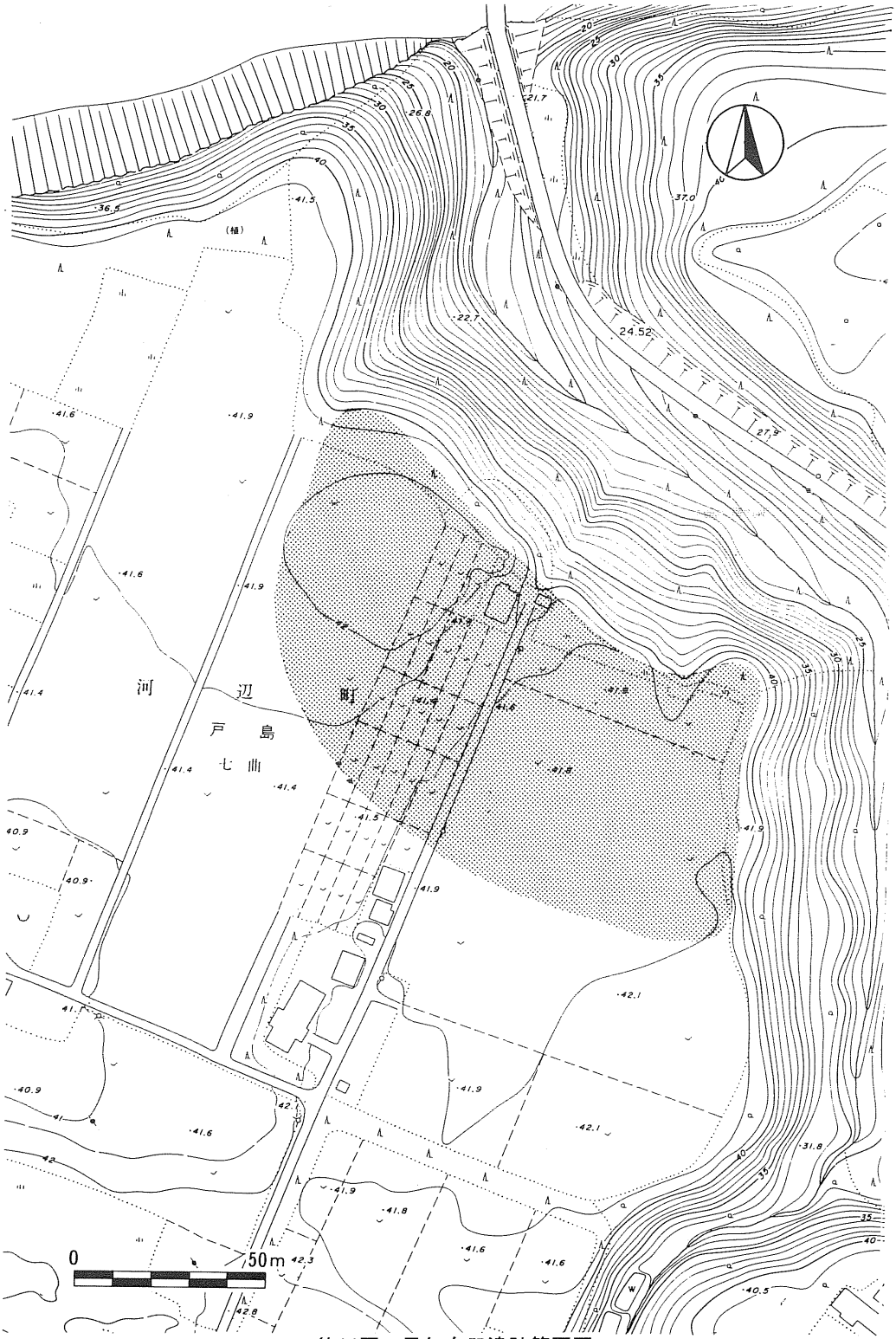
縄文時代後・晩期と考えられる土器片とフレークをわずかに採集した。地山面で倒木痕を検出したのみで遺構は検出されず、性格は不明である。

7．地層（深さ）

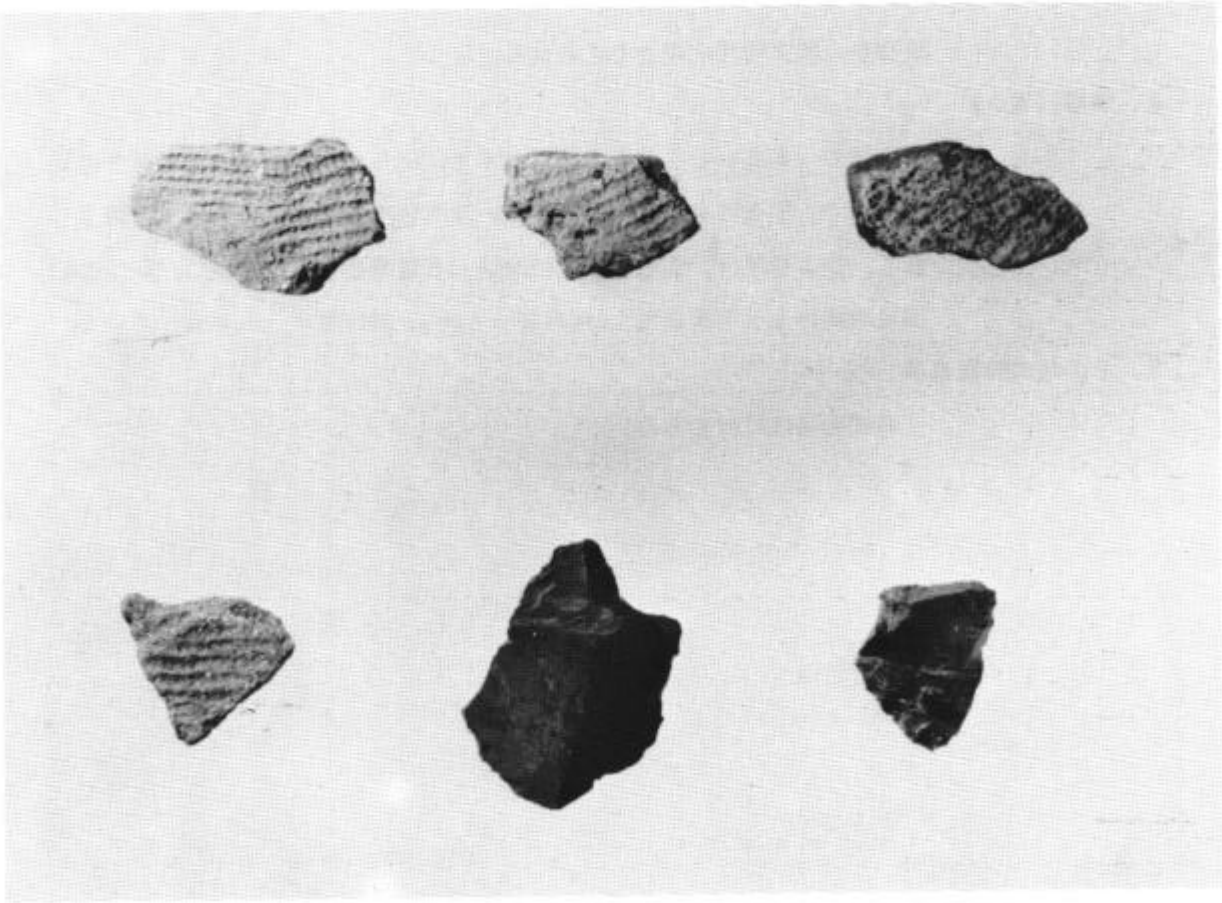
段丘上の平坦面であるため、土層は試掘地点で大きな相違はない。第I層：黒褐色表土(25cm)、第II層：暗褐色遺物包含層(15cm)、第III層：黄褐色地山。

8．その他の特記事項

遺跡東南部は工事により削平されており、遺構・遺物は存在しない。



第14図　風無台II遺跡範囲図



図版16　風無台II遺跡　上　遠景
下　出土遺物

風無台III遺跡（遺跡番号No.4）

1．所在地

河辺郡河辺町松渕字風無台63番地他

2．面　積

約10,300m²

3．調査期間

昭和57年11月30日

4．調査者

柴田陽一郎、阿部義行

5．遺跡の立地の特徴（現況）

雄物川の支流、岩見川の左岸の台地上にあり、縁辺部の風無台II遺跡の南東方向に隣接している。標高は41～42mで、東側は谷となっている。現況は畑地である。

6．範囲・時代・性格

調査では縄文時代の土器と石器が出土したが、遺構は検出されなかった。遺物から縄文時代中期と考えられる。

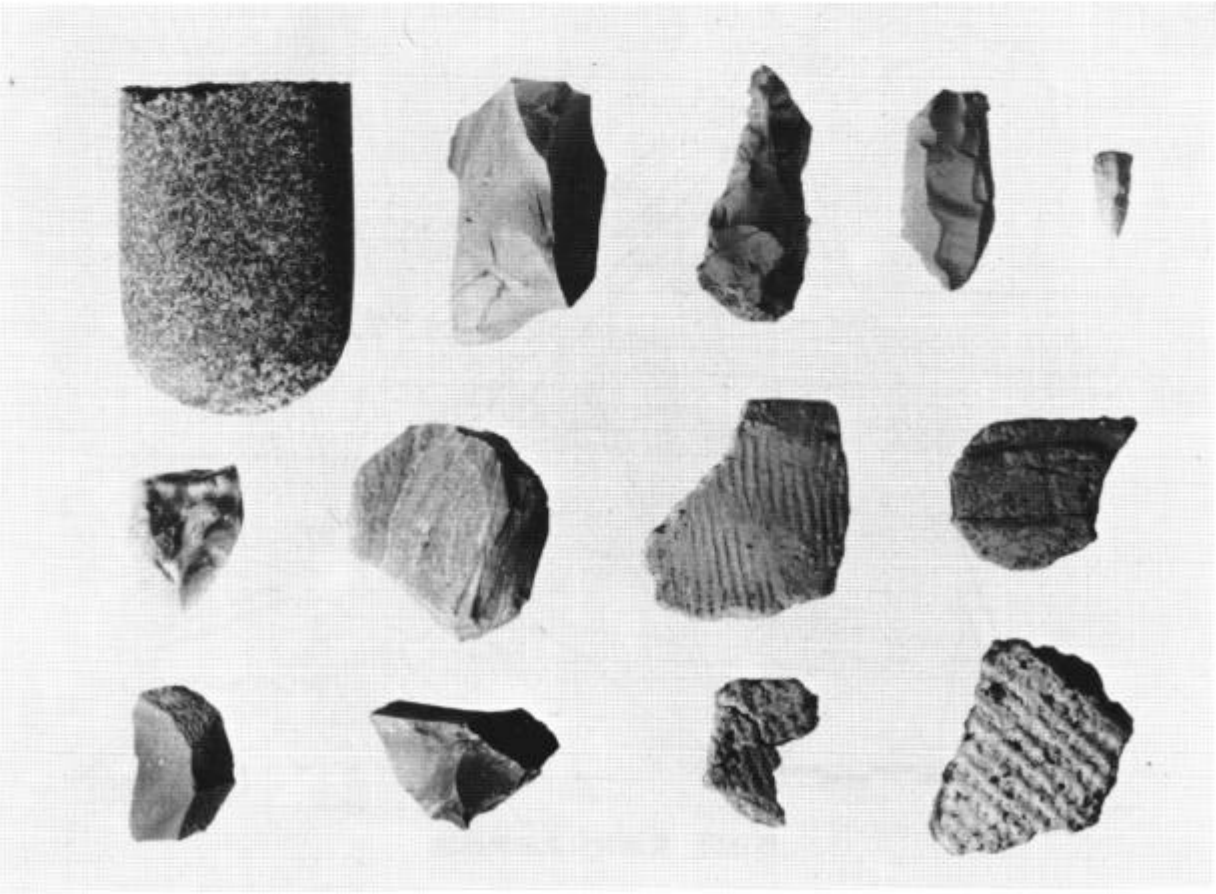
7．地層（深さ）

南側の一番高いところは包含層がすでに削られ、ロームまでの深さは10～15cmで、中央の東側は谷に続く緩い落ち込みとなり、深さは1m以上もある。基本層序は、I層耕作土(10cm)、II層暗褐色土(遺物包含層—20cm)、III層暗褐色土＋明黄褐色土(漸移層—5cm)、第IV層ロームとなっている。

8．その他の特記事項

誠掘面積は97m²である。

第15図　風無台Ⅲ遺跡範囲図



図版17　風無台III遺跡　上　遠景
下　出土遺物

松木台遺跡（遺跡番号No.５）

１．所在地

河辺郡河辺町松渕字松木台97番地他

２．面　積

約11,650㎡

３．調査期間

昭和57年11月24日～30日

４．調査者

船木義勝、　池田洋一

５．遺跡の立地の特徴（現況）

雄物川支流の岩見川左岸の段丘上にあり、標高40.1～41.7ｍの全体に平坦な台地である。遺跡の北側に谷が入り込み、西側も谷に面している。遺跡は中央部が最も高く、西側へゆるい傾斜となっている。

６．範囲・時代・性格

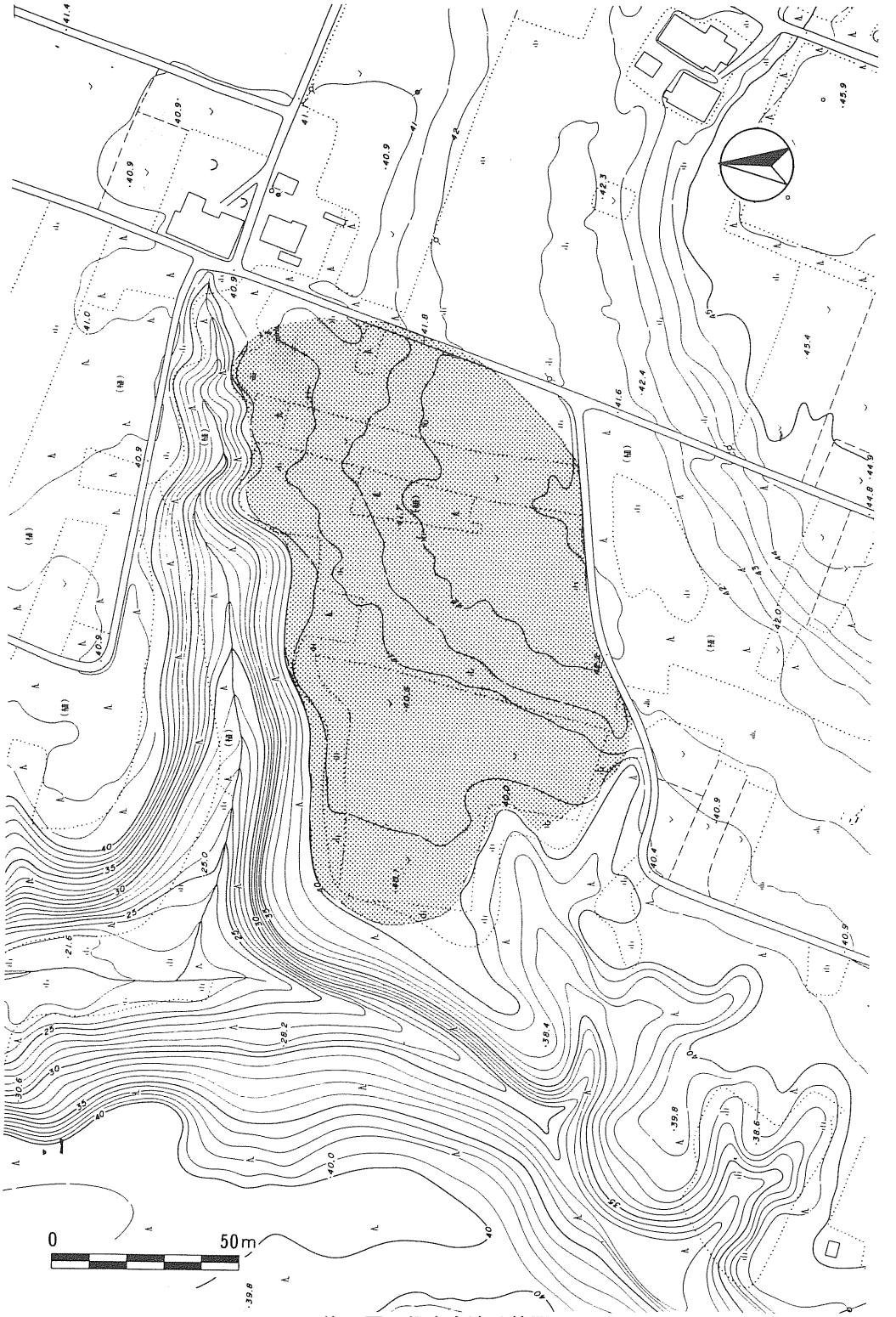
遺跡からは、縄文時代中期・後期の土器と磨製石斧が出土した。

７．地層（深さ）

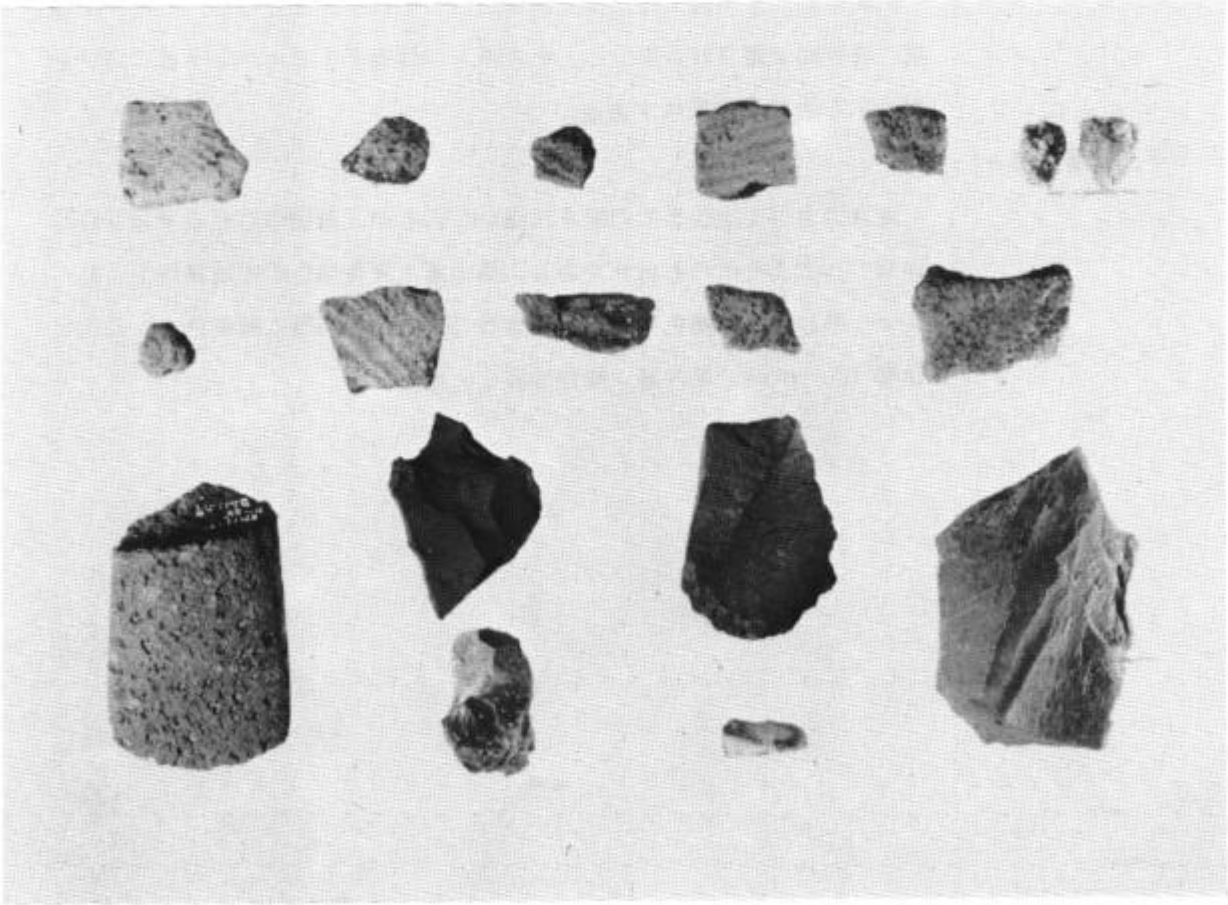
基本層序はⅠ層耕作土、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層暗褐色土、Ⅳ層ロームとなっている。Ⅰ層からⅣ層上面まで、35～45cmである。

８．その他の特記事項

遺跡の西側半分は杉苗の畑地となっている。東側は杉大木の伐採が進んでいるが、切株を残している。



第16図　松木台遺跡範囲図



図版18　松木台遺跡　上　遠景
下　出土遺物

八木遺跡

1．所在地

平鹿郡増田町増田字二井田堰向94番地他

2．面　積

約46,000m²

3．調査期間

昭和57年11月10日～11月22日

4．調査者

小玉　準、　池田洋一

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡地は成瀬川、皆瀬川により形成された扇状地上の、標高91～94.5mの平坦地にあり、その西方を皆瀬川が流れている。現状は水田、畑地である。

6．範囲・時代・性格

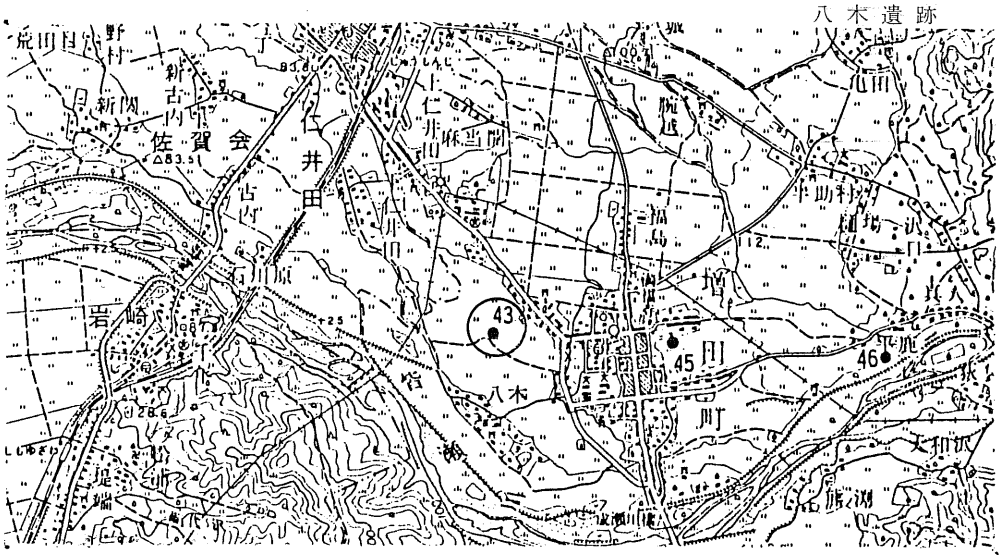
広範にわたって縄文時代後期前葉ごろの土器が出土したが、この中に遺構の存在の予想される部分と、その西方の地表下1.2mから多量に遺物を出土する捨場的な箇所がある。

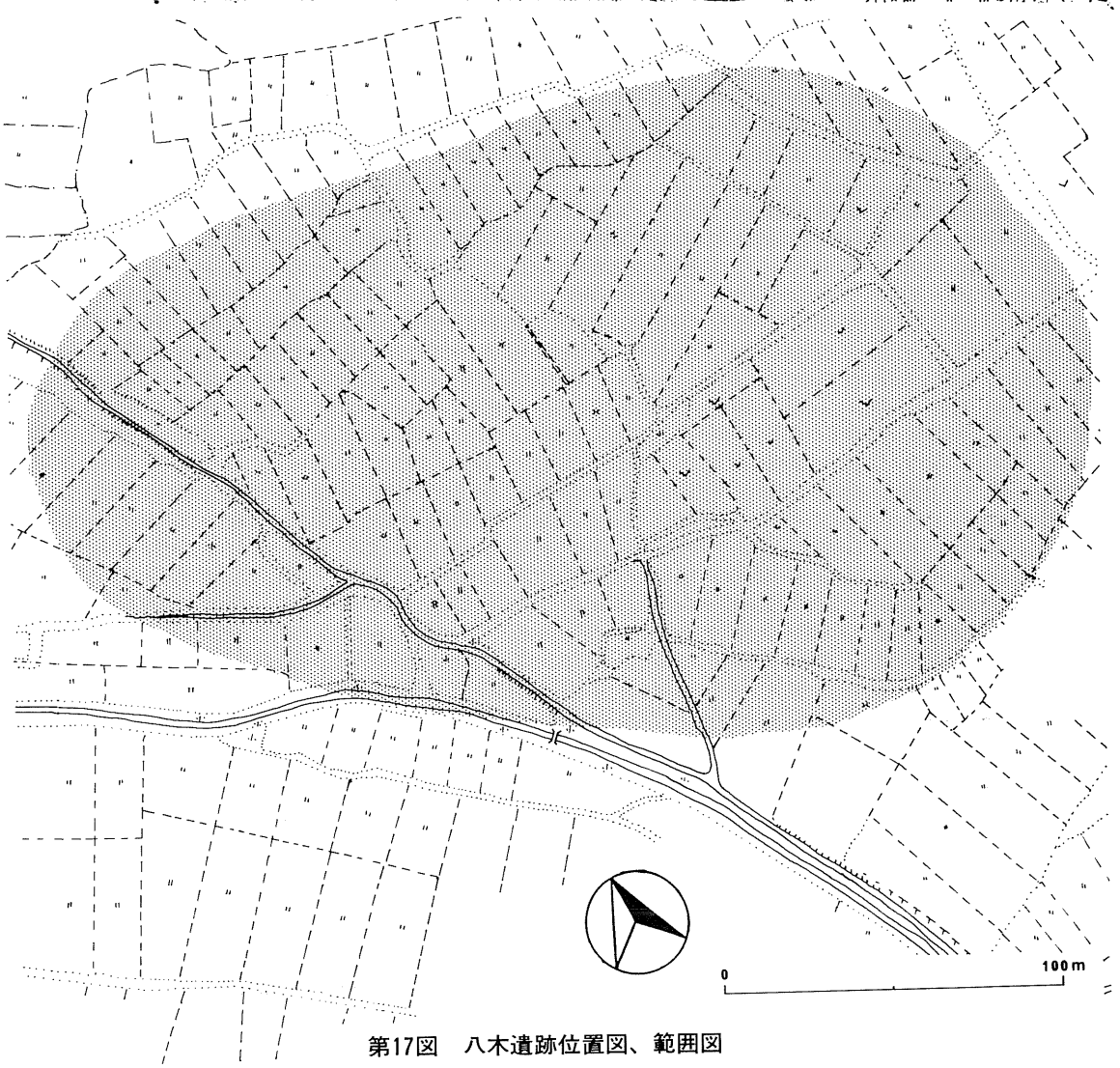
7．地層（深さ）

地点によって地山までの深さに違いがあるが、遺構の存在の予想される地点で、大よそ次のとおりである。第Ⅰ層：灰黄褐色の水田耕作土（15～20cm）。第Ⅱ層：黒褐色土、遺物包含層（10cm）。第Ⅲ層：暗褐色土、遺物包含層（20～30cm）。第Ⅳ層：褐色砂質土、地山。

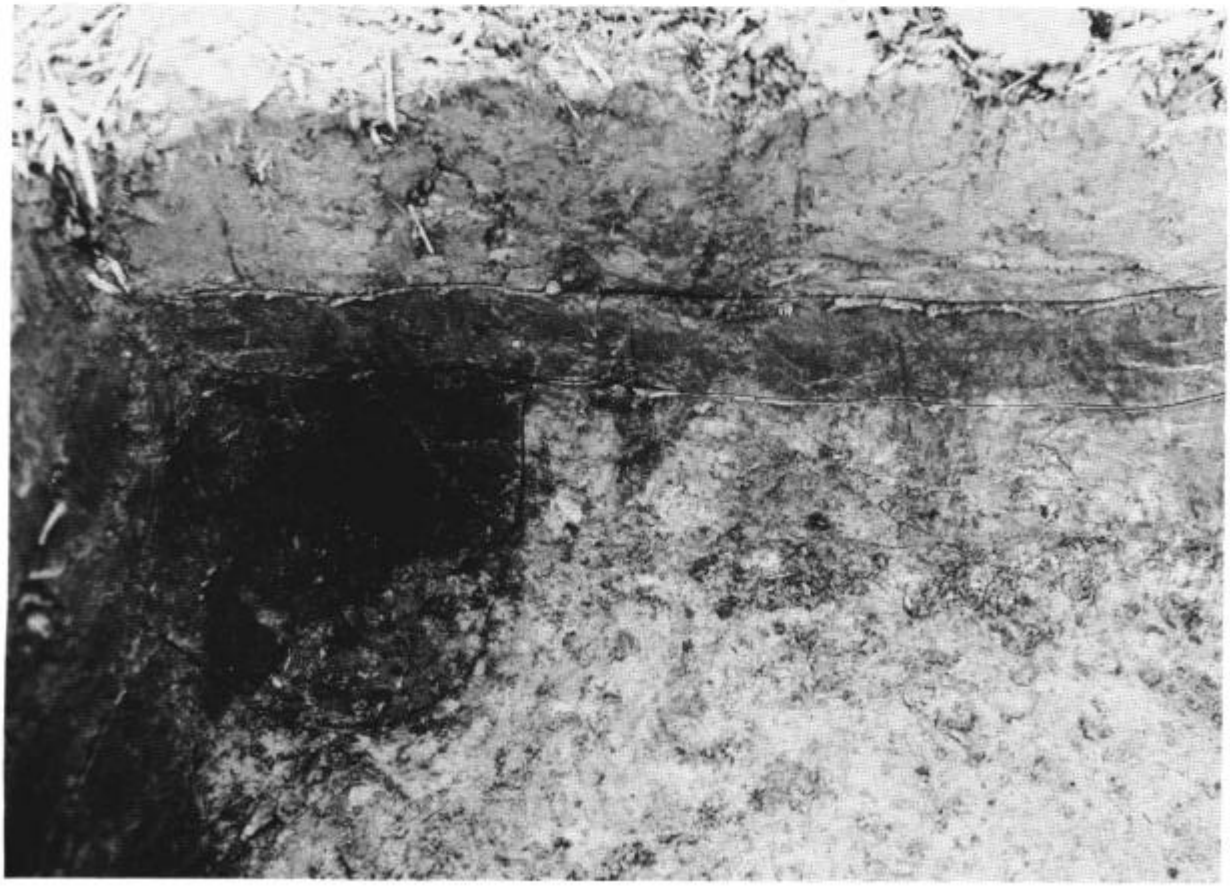
第17図　八木遺跡範囲図

▶ 位置図（1/5万）

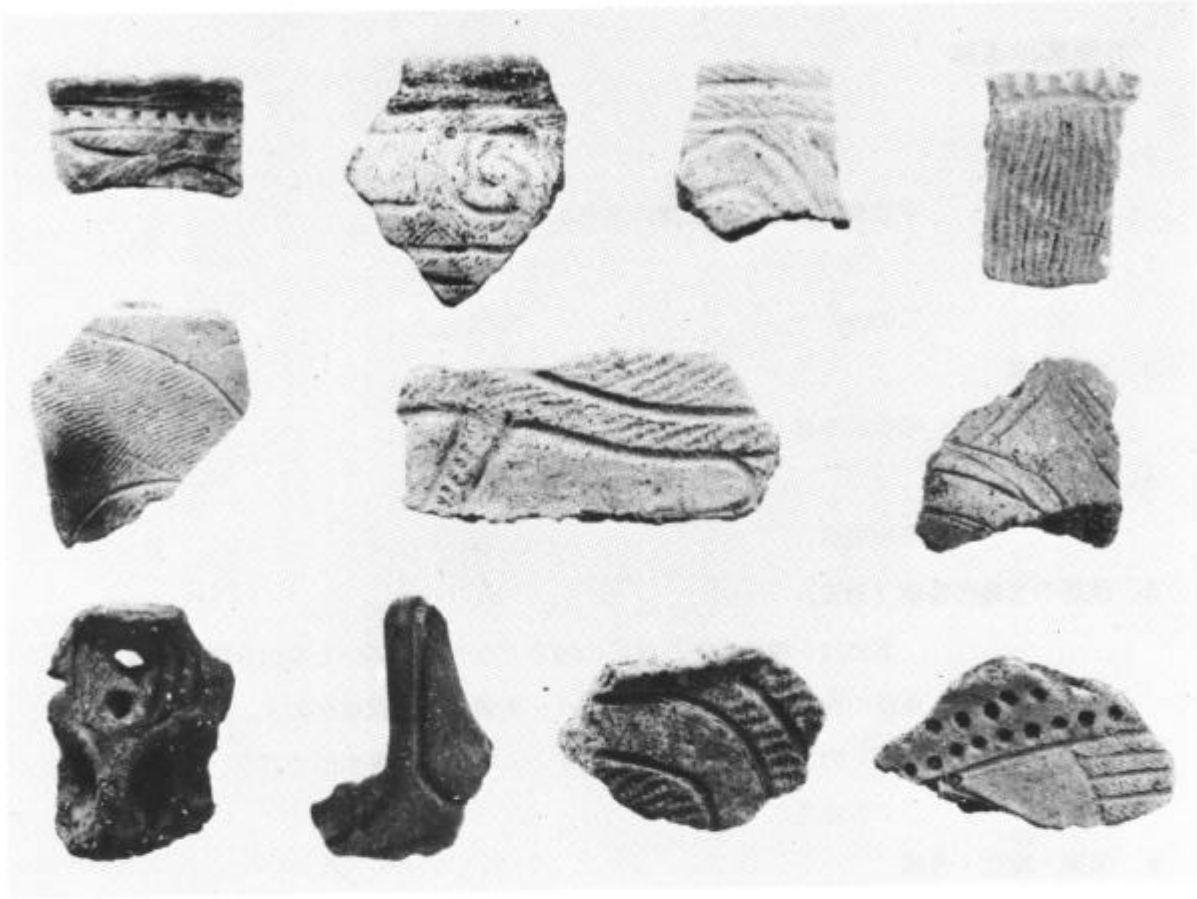


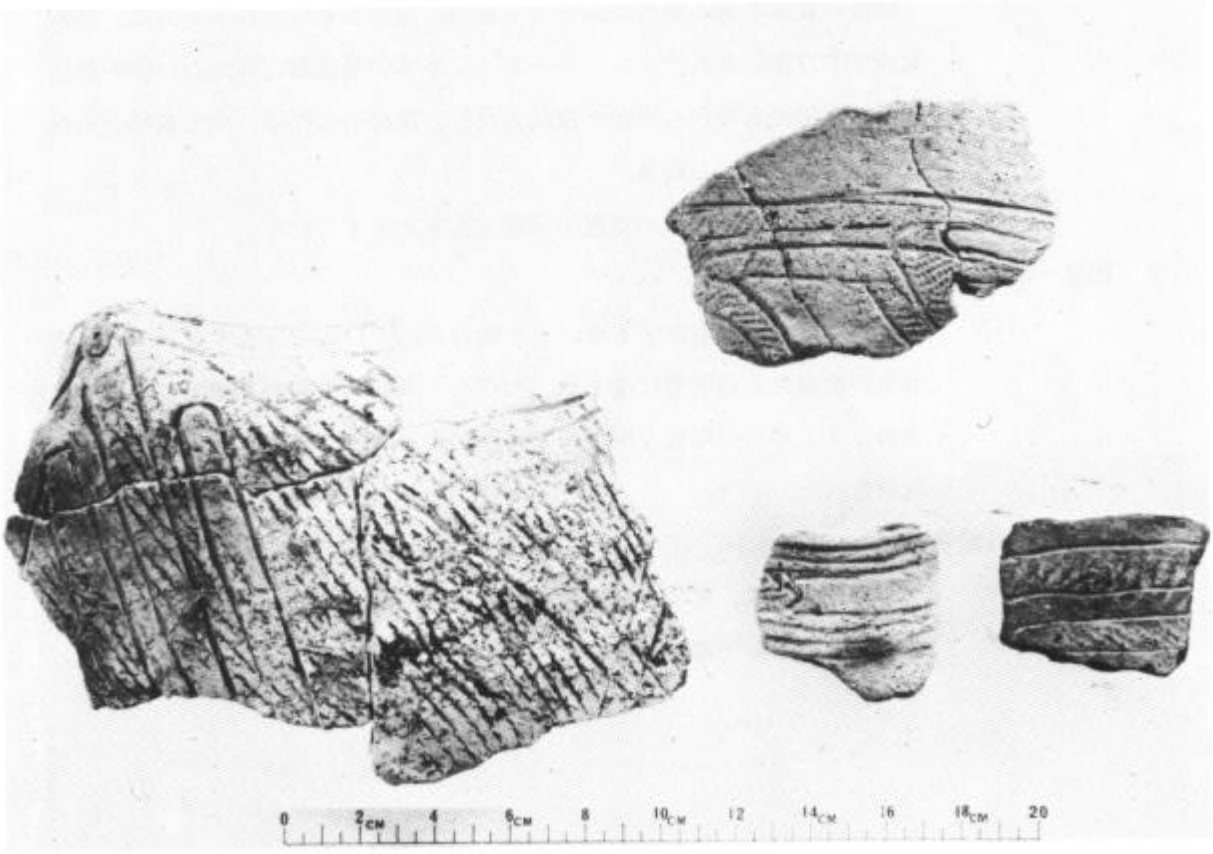


第17図　八木遺跡位置図、範囲図



図版19　八木遺跡　上　遠景
下　遺構検出状態





図版20　八木遺跡出土遺物

竹原窯跡遺跡

1．所在地

平鹿郡平鹿町上吉田間内字竹原

2．面　積

7,000m²

3．調査期間

昭和57年10月18日～28日

4．調査者

庄内昭男

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は、横手市と平鹿町の境界となる北にのびた中山丘陵の西縁にある。遺跡の西側には、水田が広がり、東側には蟹沢沼があり、地形は、南北に細長くのびた独立丘陵状を呈する。現況は、果樹園であり、ブドウ、リンゴが栽培されている。

6．範囲・時代・性格

細長い丘陵北側の東西斜面から広範囲に須恵器破片が採集された。西斜面のブドウ園に入れたトレンチからは、多量の須恵器と窯跡の一部が検出され、火床の存在から窯跡が確認された。窯跡の年代は、出土遺物から奈良時代後半と考えられる。

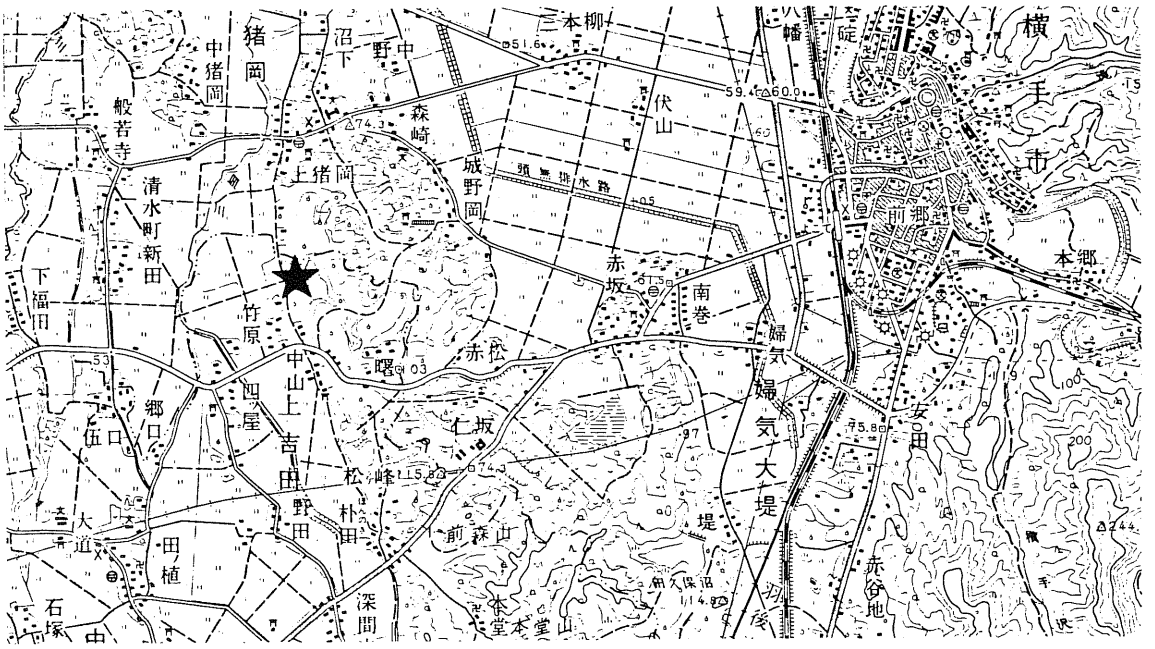
おおよそ、60～65mの範囲に窯跡があると考えられる。

7．地層（深さ）

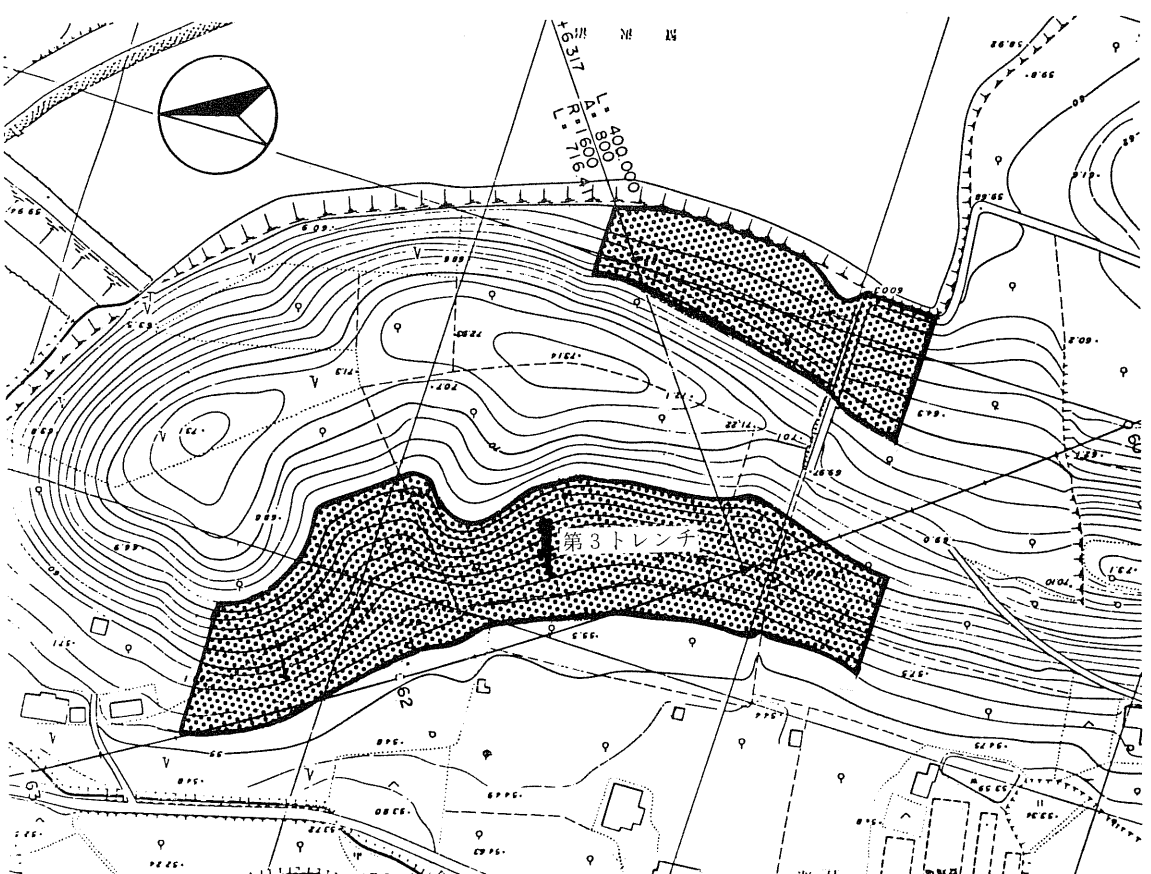
開墾により山の上からすそへ土が動かされているが、表土下20～40cmで地山の黄褐色火山灰層に達する。ただし、トレンチ調査で検出した窯跡は、地山より上層の暗褐色土層に明黄褐色粘土をはって窯体を構築したことが観察された。

8．その他の特記事項

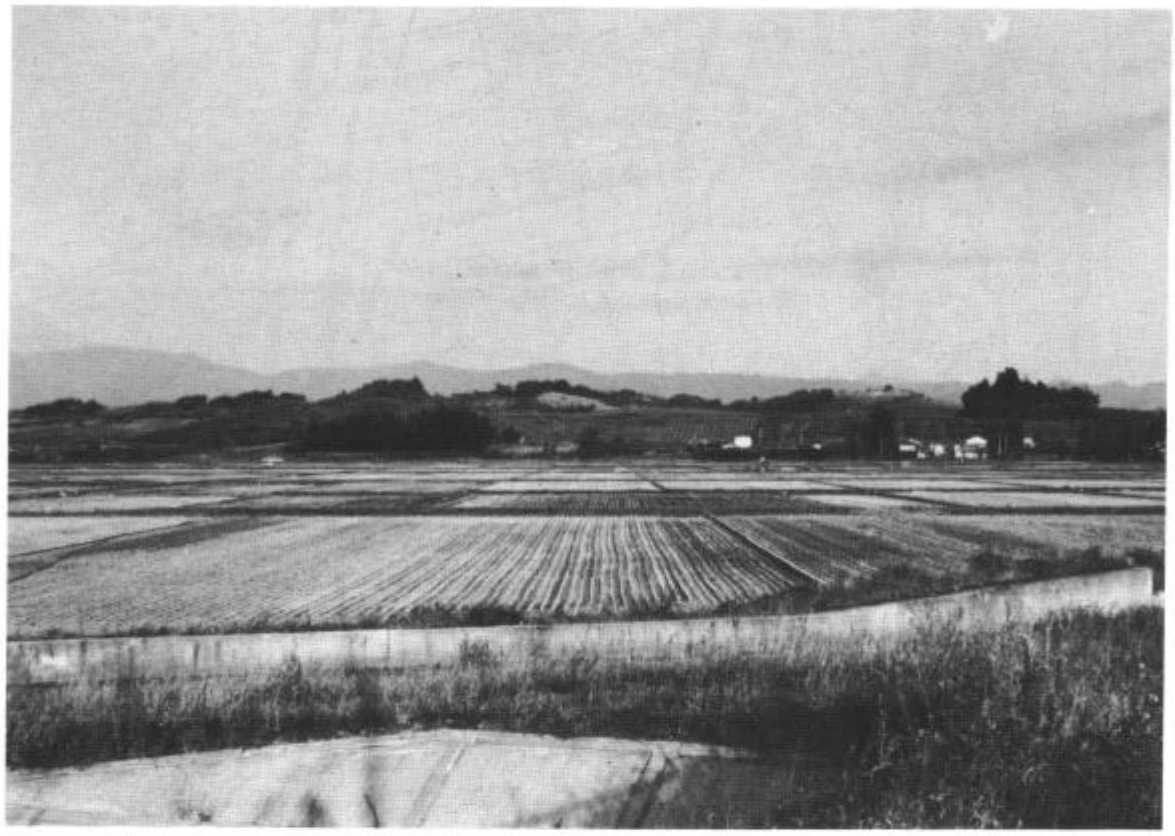
この丘陵部は、東北横断自動車道秋田線の計画路線上にあり、先の分布調査におけるNo.10遺跡となっている。



第18図　竹原窯跡遺跡位置図（1/5万）



第19図　竹原窯跡遺跡範囲図（1/2千）



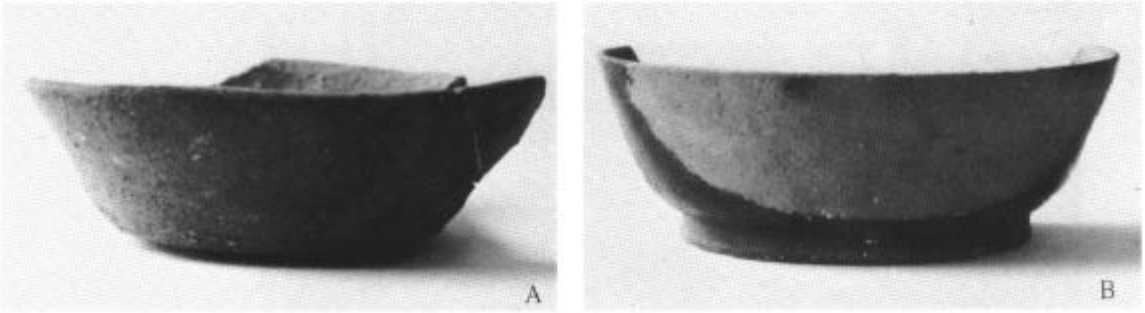
図版21　竹原窯跡遺跡　上　遠景
下　現況

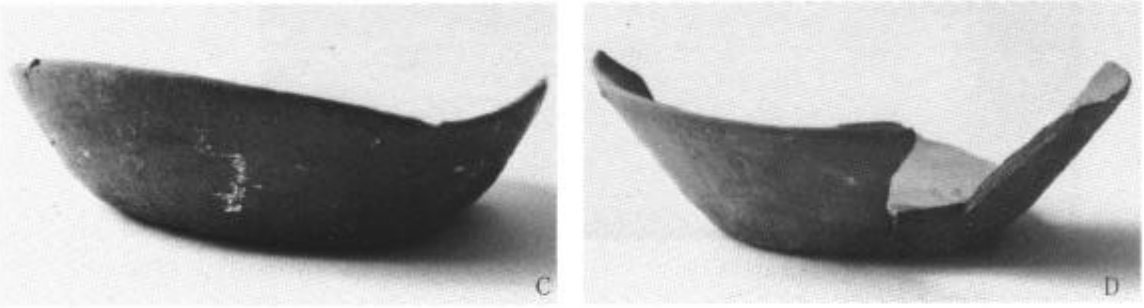
◀第3トレンチ
調査状況

◀第3トレンチ
土層断面

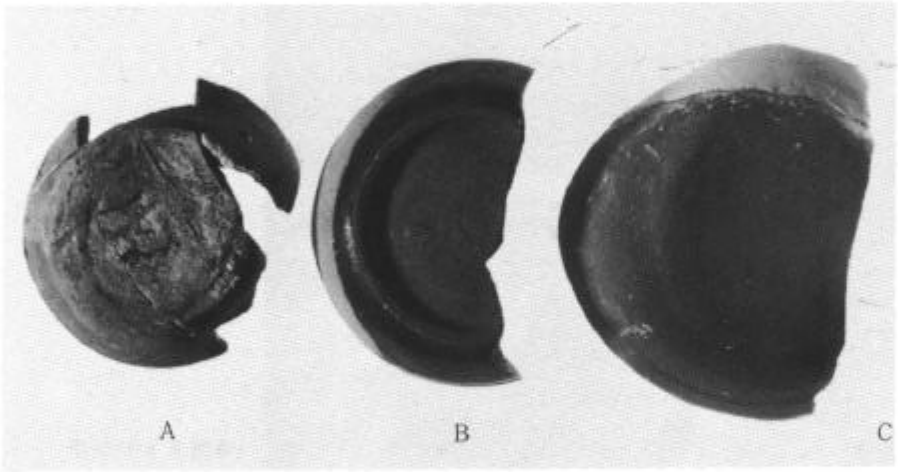
◀第4トレンチ
出土須恵器甕

図版22　竹原窯跡遺跡調査状況



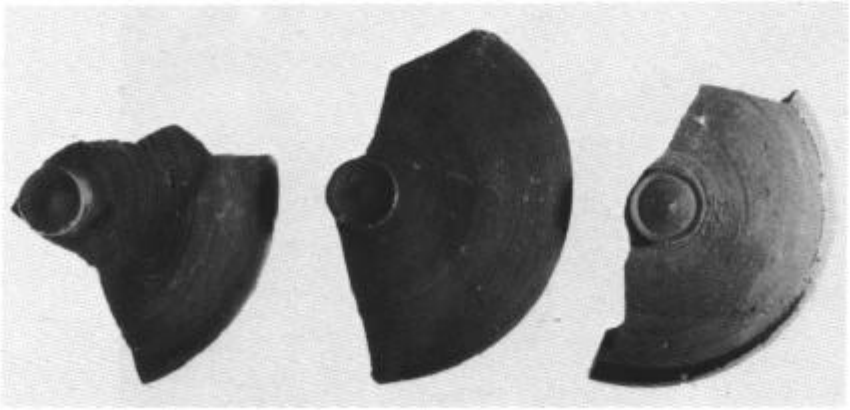


▲ 須恵器坏

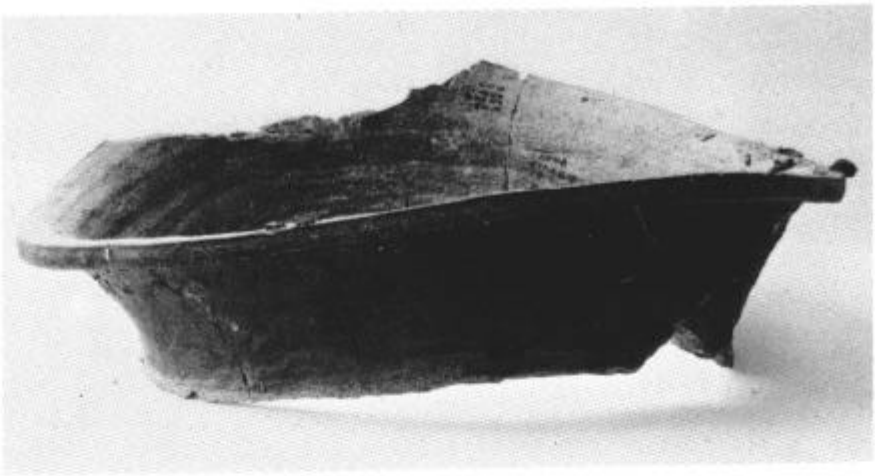


◀須恵器坏底部

▼須恵器蓋



図版23　竹原窯跡遺跡出土品　(1)



▲ 須恵器甕口縁部

▲ 須恵器甕口縁部

▲須恵器甕と窯壁

▲ 円面硯脚部

図版24　竹原窯跡遺跡出土品 (2)